YANMAR
Solutioneering Together

WF Vol.17 農業の夢追人

Wonder Field

特集
柔軟な発想で、日本の農業は変わる。
農業は、多次元産業へ。
これからの農業をプロデュース

NPO法人「農家のこせがれネットワーク」
代表　宮治勇輔さん

NPO法人「農家のこせがれネットワーク」就農者第一号
ハートフルファーム土の香　八木岡岳暁さん

農政 TOPICS
新しい『食料・農業・農村基本計画』のポイント解説

先進農業事情
・岩手県北上市（有）西部開発農産 照井耕一さん
第 39 回日本農業賞・大賞を受賞
・京都府京丹後市 タケチャンファーム
野木武さん・野木久聖さん父子
第 13 回環境保全型農業推進コンクール・大賞を受賞
・岡山県津山市 アグリアシストシステム（株）
耕畜連携の要 コントラクター事業に取り組む
・沖縄県糸満市　玉城農場　玉城哲弘さん
「沖縄で一番」を目指し、電照小菊を栽培

Wonder Field vol.17（全国版）平成 22 年 6 月発行 / 編集・発行 ヤンマー農機販売株式会社「Wonder Field」編集部　〒530-8321 大阪府大阪市北区茶屋町 1-32

YANMAR

安心を、未来へつなぐ食料自給率1％アップ運動
FOOD ACTION NIPPON
おいしいニッポンを。
ヤンマーは、FOOD ACTION NIPPON の推進パートナーです。

Wonder Field 不思議・驚き・好奇心。大地に夢を求め、農業に人生を託し、プロフェッショナルをめざす夢追人。そんな人々を応援する情報誌です。

Contents

稲穂の国博物誌
Series 02 鎮守の森 — 1

特集 ー柔軟な発想で、日本の農業は変わるー
農業は、多次元産業へ — 2

これからの農業をプロデュース
NPO法人「農家のこせがれネットワーク」
代表 宮治勇輔さんインタビュー — 4

NPO法人「農家のこせがれネットワーク」
就農者第一号 ハートフルファーム土の香
八木岡岳暁さんインタビュー — 7

農政TOPICS
新しい「食料・農業・農村基本計画」のポイント — 8

YANMAR Topics
無人ヘリによる
鉄コーティング直播栽培が大注目
滋賀をはじめ各地で実証試験
飼料イネの省力・低コスト生産に貢献 — 10

先進農業事情
●第39回日本農業賞・大賞を受賞!!
500haを超える日本でも有数の多角経営を展開し
広域的な農業の担い手として活躍
岩手県北上市(有)西部開発農産 照井耕一さん — 12

●農業が生産だけでは成り立たない時代、
農業者はいかにあるべきかを追求
京都府京丹後市 タケチャンファーム
野木武さん・野木久聖さん父子 — 14

●汎用型飼料収穫機を岡山で初導入
耕畜連携の要となってコントラクター事業を大々的に展開
岡山県津山市 アグリアシストシステム(株) — 16

●正月と彼岸に照準を当て計画的に生産・出荷
高品質な電照小菊を15000坪栽培
「沖縄で一番」を目指し、後継者育成にも注力
沖縄県糸満市 玉城農場 玉城哲弘さん — 18

トラクターEG400 お客様の声
お客様が認めたEG400 ここがスゴイ! — 20

新商品紹介
エコトラEG300シリーズ・乗用田植機RJ4/RJ5/RJ6・
飼料コンバインベーラYWH1500ご紹介 — 22

自分でできる点検・診断講座
コンバイン編 — 24

旬の農業書ご紹介 — 26

Healthy Cooking
みんな大好きな野菜カレー ー米粉の巻ー — 27

ヤンマーブランドステートメントが決定!
第21回ヤンマー学生懸賞論文・作文募集 — 28

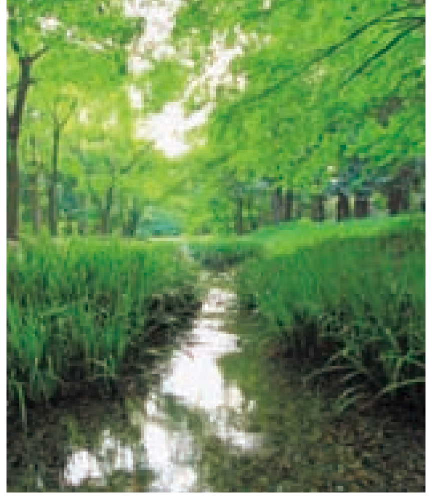
応援します!笑顔のあなた
わが家のステキな女性へ!Wonderful Women — 29

稲穂の国 博物誌
Series 02

そこは 森であり、水源であり、神 出ずる場所であった。

「鎮守の神様」という言葉が普及したのは童謡の『村まつり』によってだった。〝村の鎮守の神様の 今日はめでたいお祭り日 ドンドンヒャララ ドンヒャララ・・・〟五穀豊穣の最大の味方だった鎮守の森の神様だが、今は、エコロジーの味方でもある。農業を見守る神は、自然をも見守っている。

日本有数の鎮守の森・糺の森を擁する世界遺産・下鴨神社



鎮守の森は水源であり生命の源である：下鴨神社・糺（ただす）の森

最近、環境の分野で「鎮守の森」が注目されているという。どういうことか探ってみると、「chinju-no-mori」が世界的な学術用語になっているとも。エコロジーの世界では、日本独特の伝統的な自然空間が、自然と人間の共生の好例として見直されており、それを守ろうという活動がムーブメントになりつつある。

ある大学が五年間かけて行った東京の神社六十二社を対象とした「鎮守の森の二酸化炭素吸収量測量調査」では、「鎮守の森」の単位面積当たりの炭素蓄積量は、日本の森林の平均値の約三・三倍に上ることが分かった。「鎮守の森」は日本の森林平均より広葉樹の割合が高いことが主な理由と考えられている。そんな「鎮守の森」が全国には十数万、あるいは二十万近くあると言われている。その「鎮守の森」はどのようにして誕生したのか、と歴史をひもとくと、約八百年前の農村革命のような出来事に行き当たった。

農民がつくった鎮守の森

南北朝の頃、動乱が激しくなるにつれ、地方の有力者たちもそれに巻き込まれていったが、そんな中、農家の次男・三男たちが中心となって共同で土地開発を始め、集落が形成された。日本史上画期的ともいえる農民たちによってつくられた新しい村は「惣」あるいは「惣村」と呼ばれ、自分たちのことは自分たちの責任において行うという自治的な性格の強いものだった。そして、その政治的・精神的結合の要となったのが、村の近くの〝水源をもった森〟だった。そこに近辺の神社から神様を勧請してきて社を置き、一帯を「鎮守の森」とした。童謡『村まつり』で歌われる「鎮守の神様」はこうして誕生した。

「鎮守の森」ではさまざまなことが行われた。入会地の取り決めや、その取り決めに違反した者への罰則など、村の重要な取り決めは、「鎮守の森」に集まり、神様の前で決定した。「鎮守の森」は集落が村という共同体としてまとまるための象徴でもあった。

五穀豊穣を神々に祈り、謡うお田植祭り：滋賀県・多賀大社

村の結束力を高めるために

「鎮守の森」で行われる催事の中で最も重要なものが、祭りだった。祭りとは神様がお出ましになること。神様に御酒や御飯を供え、神楽や田楽などを披露し、人々もそのお相伴にあずかった。それによって、人々は日頃の憂さを忘れ、村の結束もさらに強まった。

祭りは、秋の実りを前祝いする春祭りと、秋の収穫を祝う秋祭りを基本とし、夏祭りや冬祭り、さらにその土地ならではの特殊神事が催されたりする。「鎮守の森」に集まる回数の多さは、村の結束力に比例したのかも知れない。

いま「鎮守の森」に求められるもの

「鎮守の森」の存在感は時代とともに移り変わったが、決定的な打撃は明治時代の神社合祀政策だった。神社が整理統合され、約十九万から約十二万へと激減したのだ。多くの「鎮守の森」が荒廃した。その後、村々の努力で盛り返してはきたが、今度は市街地化だ。現在の鎮守の森の多くは、土地開発によって水脈が切られ、かつてのような水源の地ではなくなった。

しかし、その代わりにと言えばいいだろうか、今「鎮守の森」は新たな価値を持ち始めた。それが自然と人間との共生空間、エコロジー空間としての価値だ。農業が育んだ歴史的自然遺産と言えばいいだろうか。それが日本全国にあることを想えば、なかなか壮観でもある。これからは見守ってもらうだけでなく、人間の方も見守っていかなければならない。一度、祭り以外の時に、近くの「鎮守の森」を訪ねてみられてはどうだろうか。

※「鎮守の森」には、ここに述べた中世に農民によってつくられたもの以外に、その原型となったはるか昔から存在する森もある。

田を見守り、秋の実りを喜んでいるような鎮守の森

特集　柔軟な発想で、日本の農業は変わる。

農業は、多次元産業へ。

一日も欠くことの出来ない、食。
そして日本の文化を築き上げてきた、食。
それらを支えてきた農業を取り巻く環境は厳しさを増してきています。

農地の減少、就農者の高齢化、農村の疲弊などここ十数年で顕著になった課題は、
現場で生産する就農者だけの問題ではなく、国民一人ひとりの問題でもあります。
そんな現状において平成22年3月に閣議決定された
新しい「食料・農業・農村基本計画」。
これまでの農業政策にかつてない新たな施策を盛り込み、
「国民全体で農業・農村を支える社会の創造」が掲げられました。

農業・農村の繁栄なくして国家の繁栄はありません。
「戸別所得補償制度」と「6次産業化の推進」という新たな可能性から、
食料自給率の向上とともに、農村に活力と若者、
そして笑顔を取り戻す社会づくりが始まりました。

現状

例えば、米。面積当たりの生産性の高さや多様な栄養素から、国民の生命や健康を守る役割を果たしてきました。日本を、日本人を支えてきた農業は近年、生産額の減少や就農者の高齢化割合の増加、耕作放棄地の拡大など厳しい状況にあります。

農業所得はここ15年減少傾向を示しています。農業は地域の基本となるべき産業です。所得の減少は農業の魅力を低下させ、地域全体の衰退にもつながりかねません。

新たな農業・農村へ

高齢化や担い手不足などが耕作放棄地の拡大や地域活力の低下を招いた事実を重く受け止め、新しい「食料・農業・農村基本計画」は生まれました。これによりコスト割れを是正し小規模農家も含め安心して農業に取り組むことが可能になり、頑張った分だけ手元にお金が残る仕組み作りから収入安定、自給率の向上、戸別農家の活性化を図り、農村に活力を与える〈戸別所得補償制度〉と、生産だけでなく、加工から販売までを行い、更には資源や産業に結び付ける〈6次産業〉の実現は、現状の回復と同時に若者達の関心を広げ、農家に夢を与えるプランだといえます。

自給率向上のために始まる、「食」と「地域」の早急な再生

6次産業化の推進　　**戸別所得補償制度**

戸別所得補償制度

経営規模に関わらず、意欲あるすべての農業者が安心して再生産に取り組める環境の整備

この制度は、販売価格が生産費に見合わない品目について、それを生産する農家に対し、その差額を補填する仕組みです。来年度の本格的な実施に先立ち、今年度はモデル対策が実施されています。

モデル対策

①「水田利活用自給力向上事業」
水田を有効活用して麦、大豆、米粉用米、飼料用米などの需要に応じた生産拡大を促す。

②「米戸別所得補償モデル事業」
水田農業の経営安定を図るために、米に対して所得を補償。

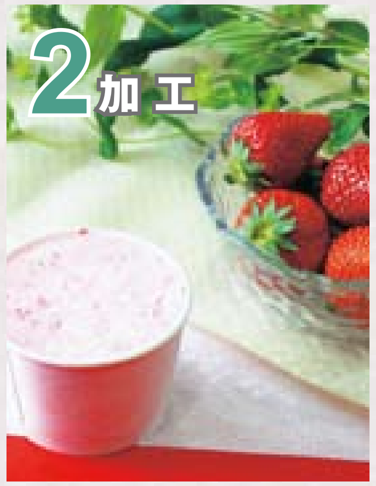
6次産業化の推進

生産、加工、流通・販売までを担う、6次産業の新しいビジネスモデル

活力ある農山漁村の再生を目指す

①就農者が加工（2次産業）や流通・販売（3次産業）を主体的に取り組むことや、加工・販売業者が農業に参入する。

②集落による1次、2次、3次産業の連携や融合に新たに取り組むことで、農村に由来する農作物やバイオマスなどの「資源」と、食品産業や観光業などの「産業」とを結び付け、地域ビジネスの展開や新産業の創出、輸出による販路拡大に取り組む。



そして農業が変化し始めた

柔軟な考え方から固定観念を取り払い、農業政策における新しい価値を持ち始めた「これからの農業」には、今までの農業からの脱却ともいうべき新しい農業の視点があります。それは、農業形態に変化をもたらし、また若干の就農意欲の高まりを予感させています。
最近では次世代を担う若者の農家を誕生させ、そして農業を輝かしい未来に変えるために取り組む団体が立ち上がり、注目を集めています。次のページでは若者の農家志望者を支援する「農家のこせがれネットワーク」の代表を務める宮治様と同団体から就農された八木岡様のインタビューより活動事例を紹介します。

※参考／農林水産省「農林水産業の将来ビジョン（農業編）」

これからの農業をプロデュース

Leader's voice
リーダーズ・ボイス
NPO法人
「農家のこせがれネットワーク」
宮治勇輔さん

若者の農家離れに終止符を打つべく立ち上がった団体、その名は「特定非営利活動法人 農家のこせがれネットワーク」。主に農家を実家に持つ若者に対して就農への手助けを行うという、これまでになかった新しいスタイルを確立させた集団です。今回は代表を務める宮治勇輔氏へ、設立に至った経緯を中心にお伺いしました。

日本の農家に対する疑問から始まりました。

Q1 まずは設立された理由を教えてください。

既存の仕組みに代わる新たな仕組みや、若い人が誇りを持って農業ができるようにしていきたい、農家のこせがれが農業をしたい！と思えるような産業にしたいという思いで設立しました。

Q2 現状の農業のスタイルでは難しくなってきているということですか？

高度経済成長期の頃はそれで良かったのですが、今はもう通用しないのではないでしょうか。ただ、その仕組みを30、40年と続けてこられた農家の方々に「変えたほうがいい」と伝えてもそうそう変えられるものではないことは理解しています。とはいえ、このままでは農業はどんどん衰退していく。現に農家の親御さんから「もう農業では飯は食えない、東京へ出て働け」と言われて東京へ送り出された息子さんや娘さんは結構多いんです。今の代で農業を終えるんだと決めてしまっているのも、珍しいケースではない事を知りました。

1 「ヒルズマルシェ」アークヒルズに農家のためのブースを用意し、こせがれも交え実際に販売。例えば、早稲田大学に在学する秋田の米農家の"こせがれ"が実家から米を送ってもらい販売。こせがれが農業との接点に触れ、さらに六本木でセルフプロデュースやマーケティングの勉強に役立てている。親御さんとの垣根を取り払ってもらうという意味合いもある。
2 「六本木農園」農業実験レストランではイベントを頻繁に開催。
3 農家行きバスツアー。
4 自慢のみやじ豚を直に味わっていただくバーベキューを月に一度開催。

宮治勇輔さん
NPO法人
農家のこせがれネットワーク
代表理事CEO
株式会社みやじ豚 代表取締役

弟とともに養豚業を経営しながら、日本の農家を元気にするための活動を行う。活動内容は各地での講演会の他、農業実験レストラン「六本木農園」の経営、イベントプロデュース、テレビや雑誌などのメディア出演など。著書に『湘南の風に吹かれて豚を売る（かんき出版）』。
「農家やこせがれのみんなを応援するため〈農家のこせがれ応援ソング〉を作りました。聴いてください！」

ブログ
http://ameblo.jp/kosegarenet/

都心で働く農家のこせがれを実家に帰す。

Q3 宮治氏もまた、「農家のこせがれ」とお聞きしました。

私の実家は藤沢市で養豚業を営んでいます。つまり私も、〝農家のこせがれ〟。大学卒業後は家業を継がず一般企業に就職しました。本を読み農業の現状を知り、日本の農業を取り巻く環境の厳しさや担い手不足の現実に気付いたんです。これはもう、やるしかないなと。ただ「実家へ帰る」と言ったときは猛反対されました。この経験が「都心で働く農家のこせがれを実家に帰す」という団体の活動目的に繋がっています。

まずは農業を知り、そして農家の未来を輝かせるために。

Q4 「農家のこせがれ」を支援する理由とは？

若い農業者を増やすには、農家のこせがれが実家に帰ることこそ、現実的で最もハードルの低い方法だからです。農業に関心を持っている若者は増えたかもしれませんが、ゼロからスタートして農業で飯を食うのは大変です。農家のこせがれは実家に帰れば家賃はただ、食費はただで、収入のない間もなんとかなります。そして、土地はあるし生産技術は親父が教えてくれるので、農業を始めるのにこんなに恵まれた存在はいないのです。しかも会社で身につけたノウハウを経営に活かせる。この点が、既存の農業に新風を巻き起こすひとつのポイントになります。将来的にはそうした仲間が全国各地に散らばり、それぞれの地域で農業をプロデュースして地域を元気にしていく。地域が元気になれば日本が元気になる。地域の農業プロデューサーたる彼らの活躍を目の当たりにしたこせがれが実家に戻っていく。こうした流れを作っていくことが私たちの狙いです。そのために、六本木を中心に農家のこせがれのための活動拠点をつくっています。例えば、我々の運営している「ヒルズマルシェinアークヒルズ」では、こせがれが実家の農産物を送ってもらい販売しています。一種のテストマーケティングの場として機能しています。また、農業実験レストラン「六本木農園」では農家や都心で働くこせがれ、飲食業界関係者などと交流を深めるイベントを開催しています。丸の内朝大学の「農業クラス」も人気ですよ。

ミッションは、「REFARM（リファーム）」。「RE turn FARM（潜在的な就農業希望者を育成し、農業へ戻す）」「RE use FARM（耕作放棄地を農地に戻す）」「RE make FARM（農業を変革する）」「RE spect FARM（農業を憧れの産業にする）」の4つこそが、団体の取り組むべき使命だと考える。

農家のイメージチェンジを狙っています。

Q5 若者は農家に対してどのような印象を持っていますか？

農業のもつ3Kのイメージ（きつい、汚い、格好悪い）を新たな3K（格好良くて、感動があって、稼げる）に変革しようとスローガンを掲げています。その方法として各自が農業プロデューサーになることが重要です。まずは実家の農産物をブランド化して直販の体制を作る。自分の育てた農産物が適切な評価を受けるために独自の販売体制を確立していくことではじめて、価格の決定権もあり、お客様からおいしいですねと言って頂けるようになります。こうしてプロデュースできるようになれば農業の印象も随分変わってくるのではないでしょうか。

「農家のこせがれネットワーク」就農者第一号
ハートフルファーム土の香（茨城県水戸市）
八木岡岳暁さん

1976年茨城県水戸市生まれ。大学卒業後、東京都内でのサラリーマン生活を経て「父親の最高に美味いイチゴをもっと多くの人に知ってもらいたい」という想いが強くなり就農を決意。デザート専門店『Toshi Yoroizuka』全店舗において土の香のイチゴが使用されている他、自社開発アイスクリーム「紅羽」も好評。様々なメディアに紹介され一躍有名人に。　http://www.tonoka.net/

「農家のこせがれネットワーク」就農者第一号にインタビューしました。

ハートフルファーム土の香
八木岡岳暁さん

Q1 こせがれネットワークをお知りになられたのはどこで、どのような事からですか？

知人より宮治（勇輔）さんを紹介されました。そこでお誘いいただいたイベントで、若くて元気な農家と交流を深めたことから就農意欲が高まりました。また実家で作った苺を私が売るという商業的な感覚を覚えたファーマーズマーケットに出店したことが大きかったですね。そこで「天日干しのイチゴ」を作り販売し、マーケティングなどが学べました。

Q2 現在の販路はどのようにして築かれたのですか？

農家のこせがれネットワークは就農を目的としている人や新しいビジネスを考えている人が集まる機会や、フードマーケットのような沢山のお客様に出会える機会を提供しています。そこで出会った多くの方からビジネスの依頼が舞い込んでくる状況が、就農前からありました。

例えば出荷量の約7割を占める「トシ・ヨロイヅカ」の鎧塚様との出会いは、六本木で行われた「ミッドマーケット」に参加した際、生産者の食材と施設内の飲食店とのコラボメニューを作る企画で父親の苺を食されたのがきっかけです。

Q3 どのようなご活動をされていますか？

やはり商品開発です。私は農業の6次産業化を実行するとき、決して「家族だけの力では達成できない」と確信しています。そのため、同じ志を持つ企業や地域の人々とタッグを組み、創り上げていくことが最も重要なことだと思います。私もパートナーと出会えたことから商品開発のスタートが切れました。

「農業の価値を高め子育てや地域活性・食育などに貢献することや、加工食品の商品化、中国などへの輸出、そしてなにより父親が作る苺を就農10年以内に継承」など、熱く夢を語る八木岡氏の挑戦は続く。

Q4 農業や商品開発以外ではどのようなことを行われていますか？

「産直品販売イベント」に参加し更に多くの出会いを求めたり、東京ビックサイトで行われる食のイベントでパネラーとして参加することもあります。また〈ママンカ市場（※）〉に参画したことで食への意識が非常に高くなっていることを実感し、農業がビジネスとして成り立って行けることがみえてきました。すべて6次産業化に向けた活動が中心です。

Q5 現在の農家／農業に対してどのようにお考えですか？

今後はどんどん民間企業と協力し事業化することや地域の人々と協力体制を築くなど、積極的な行動を起こすことが、これからの農業における新しい価値なのではないでしょうか。

※〈ママンカ市場〉…下北沢（東京）で毎月開催される、「農業×子育て×地域活性」を目的とするイベント。農業の6次産業化へ向けた幅広い交流が行われている。

八木岡さんから見た農家のこせがれネットワークとは？

農家のこせがれネットワークに集まる人たちはみな志が高く、驚かされます。しかも、行動力がその意欲に伴っていますから、自分も負けてはいけないと、仲間でありながら刺激を受けることが多いです。そこから、6次産業を行う上で大事なことは「積極的な交流」だと知りました。今も一人でも多くの仲間を作ろうと交流しています。

自社開発商品アイスクリーム「紅羽」ができるまで

- "農業×子育て×地域活性の重要性と可能性を考える"WEB制作・コンサルティング会社、株式会社スマートデザインアソシエーション（以下SDA）と「プロの技術を持ち寄り最高の商品を作ろう」とアイスプロジェクトを開始。
- 敷地内の雑木林を更地にし、加工場を建設業務用冷凍・冷蔵庫や数々の資材、運送会社との契約など、可能な限りの設備を整える。
- 法律や事務処理、品質表記上の諸問題や衛生面、保健所への手続きなどの情報収集。投資した資金返済の事業計画を立てる。
- 菓子製造業の認可を受けるため、保健所とのやり取り土地が商業規制区域にあるため、水戸市役所との調整。奥様が衛生管理者の資格を取得。
- SDAと試作を繰り返す。デザイナー数名と商品名やデザインを決定。販売原価から価格決定（味にはこだわっておりますので、必然的に高価になりました）。
- SDAが提供する若い母親向けのコンテンツサービスの会員様を対象にさまざまな調査を行い、有意義な情報を得る。
- 6000個を製造し、約5500個を売り上げる。加工場が完成し、今後はジャム、プリン、グミなど色々な加工品を製造していく予定。

記者の目

「子供たちをのびのびとした田舎の環境で育てたかったし農業にビジネスとしての可能性を感じたことも大きな理由ですが、なにより、父の作る苺を継承したいからです。」と、八木岡氏が就農を目指したきっかけは珍しい理由ではない。だからこそ、家業を継ぎたいという意思をより熱くさせ、やりがいや可能性、魅力ある業界であることを伝える環境が、これからの農家を育てる上で重要なのではと思った。全国のネットワークを通じて、これまでの親の代には考えられなかった手法を編み出す若手の後継者が増えることで「格好良くて、感動があって、稼げる」という3K産業の確立は夢ではなくなっている。

Leader's voice
「農家のこせがれネットワーク」
宮治勇輔さん

Q6 農家としての宮治さんは、これからの農家のスタイルなんですか？

私もこれからの農家のスタイルの一人

これもひとつの形だと思います。実家の養豚業「みやじ豚」では、養豚を弟が、私は餌や育て方にこだわったブランド豚「みやじ豚」を世の中に広めるプロデュース担当です。ただやみくもに営業をするのではなく、毎月メールニュースを配信して定期的にバーベキューを開催しています。有り難いことにそれが口コミで広がり、ネットでの販売やレストランとの取引に成功。2年でみやじ豚のブランド化に道筋をつけました。このように、自分たちの思いを発信し直接顧客と接点を持つやり方でマーケットを開拓していく農家こそ、これからのあり方だと思います。

Q7 農家や農家のこせがれの方々に対して、一番大切にしていることはなんですか？

人と人との交流を深めること。

なにより〝人との出会い〟の場を提供出来るかどうかですね。各地域で頑張っている農家は多いのですが、家と畑の往復でなかなか新しい取り組みが始められないのが現実です。そんな人が刺激を受けられるよう、頑張る農家や異業種の方々が集える場を用意して、はじめの一歩を踏み出すきっかけづくりを行っています。当日は一線で活躍しているいわば先輩農家や新しい発想を持つビジネスパーソンとの出会いを通じてこせがれに農業の接点をもってもらう機会になっただけでなく、農家もいい刺激を受けられる機会となりました。この出会いから新商品も誕生しています。それに商品開発というこれまでになかった発想も生まれ、例えば先日の名古屋での発表会では、ほうれん草農家さんとケーキ屋さんとが意気投合し、共同で作ったケーキが生まれました。

Q8 世間の農業への関心をどのようにお考えですか？

元々、日本は農耕民族。

ブームではなく、原点回帰なのだと思います。お金こそが絶対の価値とされていた社会から少しずつ、自然や環境に対して目を向け、食文化や豊かに生きることを模索し始め、農業にたどり着いたというイメージです。元々日本は農耕民族、価値を数字で判断する考えに疑問を感じ、日本人の意識が農業へと向かったことは必然なのかもしれません。

Q9 これからのこせがれネットワークが目指す道とは？

あくまで環境づくり。活かすのは、それぞれの頑張り次第。

私たちはあくまできっかけづくりに徹しています。これからも、意欲に燃える人が最大限に活用出来るプラットフォームでありたいですね。変化の激しい時代ですから、自ら考え自ら行動し、実家の農業をプロデュースするためのきっかけを提供できるように、もっと多くの人が楽しんで参加できるようにしていきたいと考えています。

▲先輩農家や新しい発想を持つビジネスパーソンとの出会いの場など、様々なイベントを開催している。

◀実家の養豚業では、餌や育て方にこだわったブランド「みやじ豚」を世の中に広めるプロデュースを担当。

「食」と「地域」の再生に向けて

農水省が新たな『食料・農業・農村基本計画』を策定しました。

Topics! Agricultural administration

自給率50%への引き上げ
「戸別所得補償制度」の導入
多様な農業経営体の育成・確保

21世紀の農政の基本指針である《食料・農業・農村基本法》が、平成11年7月に制定されてから10年が経過しました。そしてこの間、基本法の理念を具体化するため『食料・農業・農村基本計画』が2度にわたり策定され、これに基づいた食料・農業・農村政策が推進されてきました。
しかし農地の減少、農業者の高齢化、農村の疲弊など、ここ十数年で農業を取り巻く環境は、一層厳しさを増してきています。
そこで、これまでの農政を大胆に転換するとともに、「国民全体で農業・農村を支える社会の創造」を新たに掲げ、この厳しい状況を打開し、「食」と「地域」の再生を図るために、**10年後を見据えた新しい基本計画が、この3月末に策定されました。**この新計画は、これまでの流れとどう違うのか、その主なポイントをご紹介しましょう。

新しい『食料・農業・農村基本計画』には
これまでになかった新たな視点が
盛り込まれています。

主なポイントをご紹介しましょう。

将来に希望がもてる
食料・農業・農村の姿を大胆に提示

●食料自給率について

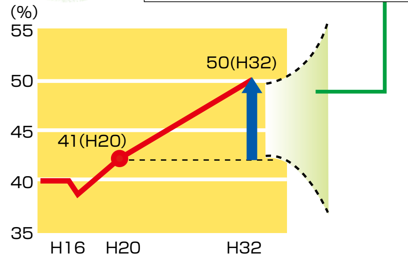
50%への引上げという意欲的な目標が掲げられました。

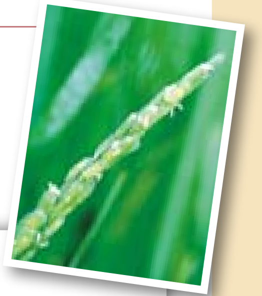
世界の穀物等の価格は、いまだ高止まりの状態が継続しており、食料の多くを輸入に依存しているわが国にとって、生産国の輸出規制など不安材料を多く抱えています。食料自給率を最大限に向上させていくことは、いま必要不可欠な課題でしょう。世界の食料需給が構造的にひっ迫してきていることを踏まえ、これまでの**食料自給率**の目標数値であった**45%を、50%へ**と引き上げました。そして、それを実現していくために、水田をはじめとした生産資源の最大限活用を目指しています。

食料自給率50%の達成を実現していくために政府は作付の拡大と農地資源の確保を進めるべく右のような目標数値を設定しました。

水田の有効活用等による穀物等の生産拡大

米粉用米	1万トン→ 50万トン
大　豆	26万トン→ 60万トン
飼料用米	1万トン→ 70万トン
小　麦	88万トン→180万トン

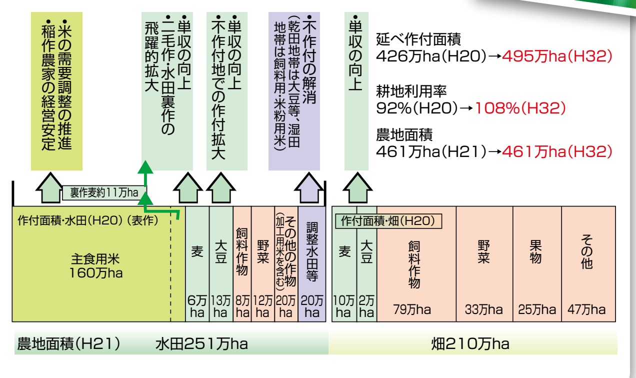




●意欲あるすべての農業者のために

「戸別所得補償制度」を導入。

食料自給率の向上を図るためには、農業生産のコスト割れを防ぎ、兼業や小規模経営を含む意欲あるすべての農業者が将来にわたって農業を継続し、経営発展に取り組むことができる環境を整備する必要がある。この考え方に沿って、今回の基本計画では販売農家を対象に、農産物の販売価格と生産費の差額を国から直接交付金として支払うことを基本とする「戸別所得補償制度」が導入されることになりました。まずは、日本農業の中心である水田に着目して、モデル的に米を対象にした制度設計がなされ、米戸別所得補償モデル事業として実施されます。併せて、自給率向上のポイントとなる麦・大豆・米粉用米・飼料用米などについて、シンプルでわかりやすい助成体系の下に水田での生産拡大を促す水田利活用自給力向上事業が実施されます。

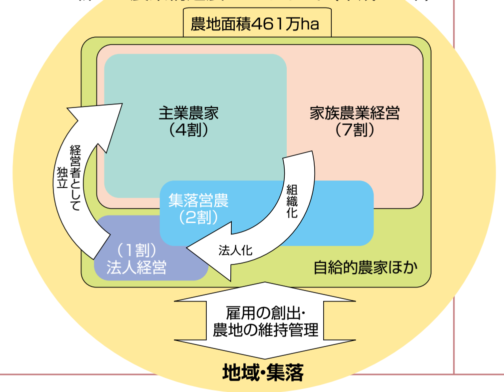


●農家数の減少を最小限に食い止めるために

多様な農業経営体の育成・確保を。

新しい基本計画では、「戸別所得補償制度」の導入による農家の環境整備、農地制度の見直しによる担い手への農地利用集積などによって、家族農業経営の活性化、農業への新規参入を推進し、農地面積を維持していくことを目標においています。
また、集落営農の組織化や経営規模の拡大、雇用の創出などに取り組む意欲ある農業者に対して、幅広い支援を行うことによって、農家数の減少を最小限に食い止め、法人経営の伸展を図るなど、新しい農業構造の確立を目指しています。

■新たな農業構造展望のポイント(平成32年)



YANMAR Topics

無人ヘリによる鉄コーティング直播栽培が大注目

滋賀をはじめ各地で実証試験

飼料イネの省力・低コスト生産に貢献

ヤンマー無人ヘリコプターAYH3

試験後、順調に発芽した飼料イネのほ場(5月31日撮影)

ヘリの準備も整い実証試験がスタート

鉄粉と焼石膏でコーティングされたコシヒカリの種子

5mの散布幅で30aを8分で播種

鉄をコーティングした種子を無人ヘリコプターで水田に直接播く。そんな新しい飼料イネづくりの実証試験が、5月5日、滋賀県東近江市で行われた。実施したのは全農滋賀県本部と（株）滋賀重農機整備センター、JAグリーン近江。かねてからヤンマーは、ほ場作りからホールクロップサイレージ(WCS)生産まで飼料イネ栽培の一貫機械化体系を営農集団や中核農家などに提案しており、その1つとして無人ヘリの普及にも力を入れていることから、省力化を目指したこの取り組みに協力し、前日から実演機を持ち込みオペレーターも派遣した。

試験当日は晴天で風もない絶好の播種日和。試験ほ場は和南地区の集落営農組合「わなみの里」に加入している寺田孝史さん（43歳）の乾田30a。ここに深さ7cmほど水を張り、鉄コーティングしたコシヒカリの種子24kg(10a当たり乾籾で5kg。鉄を覆衣すると約1.5倍重で8kgになる）を播く。飼料用にはあまり使われないコシヒカリを作付けすることにしたのは、周囲が同県内に3カ所あるコシヒカリの採種場の1つであり、万一ドリフトしても混植の心配がないようにという配慮からだ。

ほ場を提供した寺田孝史さん

「先進的な取り組みで知られているのが我が滋賀県。今回の新技術も是非とも普及させて、滋賀県農業の省力化の一助にしたい」

全農滋賀県本部営農対策部・中栄重雄部長の挨拶で試験はスタート。関係者が見守る中、種籾を満載したヤンマー無人ヘリコプターAYH3がラジコンの遠隔操作で飛び上がり、約3mの高さを2回前後進しながら5m幅で丁寧に播種していく。その安定した飛行、スピーディな作業に、通りがかりの農家の方々までもが車を停めて眺め、歓声と拍手を送っていた。こうして途中の種籾補給時間も入れ約8分でほ場全体に均一に播種が行われ、試験は無事終了。

全農滋賀県本部営農対策部の中栄重雄部長

安定飛行を続けながら均一に播種

「発芽は10日〜2週間後。サンプルを取って見たところ、播種精度も良好なので楽しみだ」とJAグリーン近江・営農企画課の姫野昭祐さん。

均一な散播をサンプルで確認

ほ場の持ち主・寺田孝史さんは「WCSを納めている池田牧場さんは牛70頭に対して水田10ha分のWCSが要るそうだけど、うちの組合では今年6,5ha作るのが精一杯。ヘリの作業能率は十分なので、苗立ちがよかったら来年はこの技術を導入して飼料イネの面積を増やしたい」と意欲を示す。隣りの布引地区で営農組合の事務局長を務める久田忠司さんも「防除用に平成14年に無人ヘリを導入したが、播種にも十分使えるかどうか、今後の生育や収量などこの試験の結果をしっかり見守りたい」。

担い手を支援するTAC活動で農家を回っているJAグリーン近江・営農企画課の姫野昭祐さん

布引営農組合の久田忠司事務局長

（株）滋賀重農機整備センターの西谷浩一センター長は、「この栽培方法だと営農組合や中核農家は規模拡大や請負面積を増やすことができる。琵琶湖を抱える滋賀県は環境こだわり米の生産にも力を入れており、これはそれにも使える技術だ」。

（株）滋賀重農機整備センター西谷浩一センター長

鉄コーティングの一番の利点は苗立ちの向上

ところで、この鉄コーティング直播技術が開発された背景はこうだ。以前から経費や時間、手間のかかる移植栽培に代わる省力技術の決め手として、直播栽培が普及されてきてはいたが、発芽・苗立ちや収量の不安定さなどから面積が伸び悩んでいた。そこで（独）農研機構　近畿中国四国農業研究センターでは、苗立ち不良の原因の1つである浮き苗が出やすい従来のカルパーコーティングに代わって、苗立ちが良くなる新技術を研究。その結果、この鉄コーティング技術に行きついたのだ。メリットは、①比重が重いため種籾が水面に浮くことなく、発芽が進む②鉄が錆びるのでスズメなどの鳥害が防止できる③鉄コーティングは、従来のコーティング機で代用できるので新たな設備投資を必要としない④種子の作り置きができるので多くの農家の要望に応えることができる⑤薬剤を使用しないので環境に優しい——等々。

この新技術を無人ヘリで行おうという栽培方式がここに来て一躍注目を集めるようになった。国が自給率向上を目指して飼料イネの生産拡大に本腰を入れ、手厚い助成金を用意したことによって、稲作農家の生産意欲が高まり、全国的に未耕作ほ場や耕作放棄地で飼料イネの栽培が一気に拡大してきたからだ。

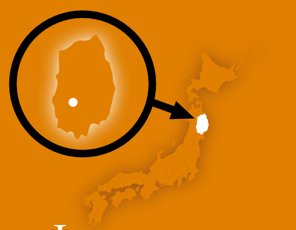
何しろ飼料用となると食用以上にコスト低減や省力化が求められる。そこで、同じ直播でも、背負動力散布機や高精度湛水条播機、打ち込み式代かき同時点播機などを使うより、はるかに時間短縮と省力化ができる無人ヘリで散播しようという動きが加速してきた。実際に、6月6日には熊本（阿蘇）で、6月15日には栃木（宇都宮）で今回と同様の実証試験が行われた。

ヤンマーヘリサービス（株）の長田真陽営業部長は「ヤンマーでは、単に無人ヘリによる播種作業だけでなく、汎用型飼料収穫機や飼料コンバインベーラ、さらにはTMRセンターまで、飼料イネ栽培の一貫機械化体系を用意しトータルにお手伝いしているので、ぜひご相談を」と呼び掛けている。

ヤンマーヘリサービス(株)の長田真陽営業部長

試験を終えて寺田さん親子と今後を相談

この『先進農業事情』は、各地で意欲的に農業に取り組んでおられる人たちを紹介するページです。
稲作・畑作そして酪農・畜産の分野で、自分の意志で選んだ農業に誇りを持ち、
従来のやり方に独自の工夫を施して営農されている方々です。



岩手県北上市
照井耕一さん（有限会社 西部開発農産 代表取締役社長・67歳）

規模：米／112ha、麦／110ha、大豆／270ha、ソバ／50ha、キャベツ／27ha、肉牛（120頭）、加工など

照井耕一社長

FUN!FUN! YANMAR

ヤンマーさんはアフターサービスが1番いいからつきあっています。夕方や日曜に機械が壊れた時でもすぐに飛んできて直してくれます。
農家が困っているときに迅速に対応し要望に応えようとする姿勢が嬉しいですね。

第39回日本農業賞・大賞を受賞!!
500haを超える日本でも有数の多角経営を展開し
広域的な農業の担い手として活躍

農地を守る、という信念と使命感

農業分野の賞の中で最も権威あるものの1つが日本農業賞（主催・全国農業協同組合中央会、NHK）。昨年度（第39回）、個別経営の部で大賞に輝いたのは、岩手県北上市の農業生産法人（有）西部開発農産（照井耕一社長）だ。昭和61年の設立以来23年、借地と受託によって着々と規模を拡大。米、麦、大豆の穀類を中心に野菜、畜産、加工と経営の多角化を進めながら、新技術を導入し社員のモチベーションを高めて効率化を図り、500haを超える大規模経営を実現していることが高く評価された。集落営農以外の耕種部門でこれほどの大面積を営んでいる所は他に例がない。

日本農業賞・大賞受賞の表彰状

日本農業賞・大賞受賞のトロフィー

「これまでもいろいろな賞を頂きましたが、今回の賞は別格です。地域や関係機関の皆様のご協力のおかげと感謝しています。そもそも今の私があるのは8歳の時に父を亡くしたのが大きいですね。開拓で入植し砂礫と火山灰土で何を作っても穫れない不毛の荒れ地を開墾し始めてまだ5年でした。私も働いて母を助け、中学・高校時代は家計の足しにと篤農家の家に泊まり込んで農作業の手伝いをし農業を勉強させてもらいました。食べ物にも不自由する生活でしたから、農業の重要さや食べ物の大切さを小さい頃から学んできましたので、農地や食料に執着があり、農地を荒らしたくない、どんな土地も耕そうと執念を燃やしてきました。それが今回の賞に繋がったのでしょう」と照井社長は喜びを語る。

5年7毛作の輪作体系で農地をフル活用

農地の集積に力を入れてきたのは「農地は大切だ、荒らすと勿体ない」という信念から。同市では高齢化や後継者不足のうえ工業団地が近くにあるため兼業化が進み、作業委託や全面管理への要望が急増してきた。

「困っている農家を助けたい。その一心で、北上市内はもちろん隣の花巻市や金ケ崎町、西和賀町など遠方の農家からも農地を引き受けました。しかも他の担い手は引き受けない荒れた農地や条件の悪いほ場も請負ったので、それが信用に繋がり、『西部開発農産に任せれば安心だ』という評判が浸透していったのでしょう。地域がよくなって私も潤う。それが私の基本理念です」

農業農村指導士等に認定された文字通り広域的な地域農業の担い手という役割を果たされている同氏に、経営の特徴を伺った。

まず、主体の米と転作の基幹作物は、『夏ソバ→麦→緑肥大豆→麦→秋ソバ→大豆→豆類』という5年7毛作の輪作体系をとっている。省力化やコスト低減、労力配分、リスク分散が図れ、連作障害を防いで有機質も投入できるからだ。その中で麦20haと大豆30haでは不耕起栽培にも挑戦。

「二毛作はこの辺ではできませんが、麦の後すぐに大豆を作る方法をブラジルに行って勉強してきました。麦は単収が590kg穫れ、大豆も成果がいいので、面積を増やしていきます。CO_2削減に繋がりコストダウンにもなりますからね。米も今年飼料用米を35ha試験的に栽培します。交付金もさることながら、水田が100ha以上あると水稲の作期幅が広がるのが大きな利点ですね。収穫も食用米を刈り終わってから適期にゆっくり飼料用米を刈り取れます。JAのカントリーで調製した籾を大手商事会社に売り、鶏糞を買ってほ場に散布します。うちの牛糞だけでは足りませんから」

収穫時期はヤンマー汎用コンバインGC980をはじめ大型コンバインが10台動く

また、キャベツなど野菜を導入しているのは、労働力の配分と運転資金に回せる換金性の高さから。さらに畜産も、循環型農業の一環として堆肥をほ場に投入するためにも欠かせない部門。実際にいい牛を育て、いい枝肉を作ることにかけては自信を持っており、受賞歴も多い。昨年から導入を始めた繁殖牛も、今後頭数を増やしていく計画だ。

その他、雪に閉ざされる冬期は、岩手県種苗センターから委託されて大豆「いわてみどり」の種子選別作業が主な仕事。特殊な品種なので機械選別の後、仕上げは手選別で行う。それ以外に高速道路や市内の除雪にオペレーターとして社員を派遣し、1年を通して仕事を確保。さらに農閑期を埋める作目として菌床シイタケの栽培も視野に入れている。

市内の小（中）学校の生徒がキャベツの収穫を体験

若い人材の育成に注力 高齢者にも働く場を提供

もう1つ力を入れているのが、地域農業を担っていく人材の育成だ。現在役員4名に正社員25名、パート130名を雇用しており、社員の平均年齢は29歳。新卒者も毎年インターネットで募集し、農業に関心を持つ若者が各地から多数入社する。

その一方で、社員の定年を延長したり地域のお年寄りをパートで雇うなど、高齢者の生きがいに繋がる働く場も提供している。

「社員やパートさんにいかにやる気を起こさせるか。それは経営者が自ら前向きで取り組む姿勢や意欲を前面に出していかないと皆ついてこないし、やる気も出ません。また、作物の生育を見て喜び、さらに消費者からの『おいしい』という声で農業の面白さや楽しさを味わわせた上で、何のためにこの作業をするのかをしっかり自分で考えて仕事をさせています。作業効率が上がり、本人にとって責任感を育てることになるからです」

今回の受賞で社員たちが「世界でいちばんいい会社」「なくてはならない会社」とますます誇りを強めてくれたそうで、今後、社内が一段と活性化し発展していくことは間違いない。

水稲の収穫作業

大豆も生き生きと生育

ほ場が集まる同社周辺

湿田でもヤンマークローラトラクターなら楽に作業

ひまわりも作付け、味噌に加工

事務所での仕事も忙しい照井社長

北上川では市民が持ち寄ったこいのぼりがつるされて圧巻

先進農業 ワンポイント

- ✓ 5年7毛作の輪作体系により、省力化・コスト低減・労力配分・リスク分散を図り、作付け面積を拡大。麦の後すぐに大豆を作る方法をブラジルで勉強するなど研究熱心な成果。
- ✓ 米、麦、大豆を中心に野菜、畜産、加工と経営の多角化を進めながら、新技術を導入して社員のモチベーションを向上。地域農業を担っていく人材の育成に注力。

Kyoto

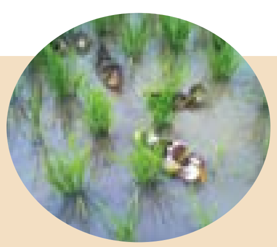
京都府京丹後市
野木武さん(49歳)・野木久聖さん(26歳)父子(タケチャンファーム)

規模:米/15ha、野菜等(ブロッコリー、大根採種、露地メロン、堀川ごぼう、季節野菜)/133a

熱弁をふるう野木武さん

FUN!FUN! YANMAR

ヤンマーさんの素晴らしいところは開発力。ユーザーの声をすぐに反映してくれます。さらに求めることは、これからは農業者だけでなく一般消費者も巻き込んだコミュニケーション戦略を展開してほしいということです。



あいがも農法で活躍してくれるアイガモ部隊

インターンシップの学生にコンバインの操縦を指導

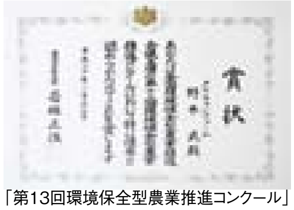
現在、タケチャンファームは野木家3代5名で運営されている(バックはヤンマートラクター CT651)

農業が生産だけは成り立たない時代、農業者はいかにあるべきかを追求。

環境保全型農業推進コンクールで大賞受賞

稲作農家は米をつくっていればそれでいい、という時代は終わった。これが野木武さんの現代農業に対する基本認識であり、その多岐にわたる活動の出発点となっている。だからこそ野木さんは多様な関わりを求め、地域の中で、社会の中で、積極的に自分にできることを探し、見つかれば行動に移す。一農業者としての枠をこえているとも、あるいはこれが新時代の農業者の一典型とも見える。常に時代を見つめ、これからの農業経営者はどうあるべきかを追求し続ける野木さんに熱く語ってもらった。

2008年(平成20年)、野木さんは「第13回環境保全型農業推進コンクール」で大賞を受賞した。資源循環をベースにした「環境にやさしい農産物つくり」を実践し、新技術導入にも熱心な地域のリーダーとしての活動が評価されての受賞だった。すでにその5年前にも、農業を通じ環境保全・地域活動に積極的に取り組む活動が認められ、農林水産省経営局長賞を受賞。どちらも京都府では初めての受賞だ。



「第13回環境保全型農業推進コンクール」大賞の賞状

「大賞受賞は、自分たちの活動が認められたということですから、もちろんうれしかったですが、あの年は取材、講演依頼が多くて、ほんと大変でした」と笑いながら語る野木さんに、受賞理由となったタケチャンファームの「環境にやさしい農産物つくり」について説明してもらった。

可能な限り人と自然にやさしく

「農薬のおかげで農産物の生産量と品質は劇的に向上しましたが、その結果、食品にとって大切な安心や安全は損なわれ、生態系に大きな影響を与えるようになりました。それに気付いた以上、できるだけ農薬は使わないでおこう、というのは自然な流れだと思います。ファームでは限りなく農薬ゼロに近い減農薬米を栽培するため、除草に米ぬかペレットを使ったり、土を焼いて育苗土を無菌状態にしたりと、さまざまな努力をしていますが、耕作地すべてを無農薬で栽培するには周辺環境や労働力などの問題があり、現在は、減農薬米11ha、無農薬米50a、あいがも農法米30aで栽培しています」。野木さんはそれらの栽培情報をホームページで公表し、消費者からの信頼獲得に努めている。

5年前から廃食用油から生成され、CO_2削減効果のあるバイオディーゼル燃料を農業機械の燃料として利用。NPO法人エコネット丹後が、各家庭から出る廃食用油を回収し、燃料に精製。毎月約3000リットル集まる。環境にかかる負担を少しでも低減し、生態系を守るのも農家の重要な仕事のひとつと野木さんは考えている。最近になってファームの水路にも昔の風景がもどってきたそうだ。

地域に根ざした農法が、さまざまなプラスを生む

野木さんは、丹後地方で生み出される副産物、使わなければゴミとして捨てられるものの再資源化にも取り組んでいる。そのひとつが、カニ殻だ。丹後は間人(たいざ)ガニが有名で、シーズンともなると遠方からカニを食べに来る観光客が多く、全ての旅館が満員となってしまうという。そこに目を付けたのが野木さんだ。「多くのカニが消費されるということは、多くのカニ殻がでるということです。なにもしなければただのゴミとして扱われてしまいますが、粉砕することでミネラル豊富な肥料にかわります。タケチャンファームではその自然由来の肥料を水田にまくことで、ミネラル供給をはかっています。最近はカキ殻も使用しています」。

減農薬米「丹後コシヒカリ」(10kg)とあいがも農法米「てんてこ米」(5kg)

さらに、まくと病害虫に強い米が育つと言われている竹の粉も使用。地域で増え続けている放置竹林の竹を伐採し、粉砕機で粉にして使うと、減農薬と里山の維持にも貢献するという一挙両得。タケチャンファームの作業場では日本海からの風を利用した風力発電機も活躍。活用できるものは何でも活用する。そのためには努力を惜しまない。野木さんの徹底ぶりには脱帽だ。

3年連続「特A」は丹後の農業力の証

野木さんが大学を卒業し、農業者として一歩を踏み出した頃に生産調整がはじまった。若くエネルギッシュで面倒見がいいという人柄ゆえか、周辺の農家からの水田を任せたいという声が多く、受託耕作が急増。その頃、地域の後継者クラブで地域興しを、農業クラブで農業経営の勉強をと、地域の若手として積極的に活動したそうだ。その時の経験がいま生きているという。2001年(平成13年)に、京都府から『京都府指導農業士』認定を受けた。指導農業士とは、自らリーダーとして地域の農業振興に取り組み、農業大学校生等の農家研修の受け入れ、小中学校の体験学習の場の提供などを行う農業者のことだ。タケチャンファームでは中学生から大学生までを対象とした、インターンシップ(職場体験)も引き受けている。そこには新しい農業を知ってもらうだけでなく、これからの農業を担う世代を育てていきたいという野木さんの思いがある。

田植え作業で活躍するヤンマー田植機と野木さん

そんな野木さんへのご褒美のように、「丹後コシヒカリ」が米の食味ランキングで平成19年、20年、21年と3年連続「特A」という快挙を成しとげた。あの魚沼産と同等のおいしさだ。丹後の米が評価されることは、なによりうれしいに違いない。

これからの農業者には多彩な活動が不可欠

冒頭で紹介したように、野木さんの活動のユニークさは〈農業という枠にとらわれない〉ことにある。農業を活性化するためなら他業種とのコラボレーションは大歓迎だ。「ファームの無農薬酒米を使って米焼酎や日本酒を地元の酒蔵でつくってもらっています。自分でいうのも何ですが、旨いです」と顔をほころばせる。

インターネットで京丹後市の旅館を検索すると、農業体験付き宿泊プランのある宿があった。詳しく見ると、体験農場はタケチャンファームとなっている。2年前から観光協会とタイアップして、地元の旅館の宿泊プランのひとつとして田植え体験や稲刈り体験を盛り込んでもらったそうだ。「農業の大切さを知ってもらうための広報活動も、これからの農業者の取り組むべき活動」と野木さんは語る。

2年前に設立された京丹後市農業経営者会議では副会長を務める野木さん。給食委員会を立ち上げて、市内の小中学校の給食に地元の新鮮な野菜を提供し、子供たちに安心・安全な野菜を食べてもらおうという活動をはじめた。「子どもの頃から、野菜本来のおいしさを知り、食に対するこだわりをもってもらいたいというのが願いです。身体づくりにとって重要な時期に、安心・安全なものを食べてほしい。いま、食育インストラクターの資格を取るのが目標です」。そのためには通信教育を受けるそうだが、野木さんにはそれすら楽しんでしまおうとする余裕を感じる。今後、ファームを会社組織にして、息子の久聖さんに生産をまかせ、自分は消費者へ向けたさまざまな活動を実施していきたいそうだ。目の輝きが年齢を感じさせない。

地元の酒好きが集まってつくった吟醸酒『酒々人々(しゅしゅじんじん)』と米焼酎『くろくち』

先進農業 ワンポイント

- ✓ 農業の枠にとらわれないということ。
  どんどん外へ、他の業界へ向かい、
  新たな関係をつくっていくことで、
  新しい価値をつくっていくことができる。
- ✓ 消費者との信頼関係を大切にするということ。
  減農薬も無農薬も販売も、
  その信頼関係の延長線でとらえ、
  さらに新しいサービスを発見していくことが大切。

岡山県津山市 アグリ アシスト システム 株式会社

規模：収穫作業受託（トウモロコシ、飼料イネ、牧草）約120ha

汎用型飼料収穫機を岡山で初導入 耕畜連携の要となって

コントラクター事業を大々的に展開

左から福島康仁さん、石原聖康代表、
ヤンマー農機販売（株）津山支店・佐伯秀明次長

FUN! FUN! YANMAR

ヤンマーの津山支店とは3年前、他の酪農家さんの収穫作業の実演会で知り合い、お付き合いが始まりました。以来、いろいろ情報を持ってきてくれたり、相談に乗ってもらっています。担当者の佐伯さんは農業機械整備士1級を持っておられ、機械に明るく、何かあるとすぐに飛んできてくれます。

岡山県で第1号機のSMR。

汎用型飼料収穫機 SMR1000で能率アップ 人手も3人から2人に

先端アタッチメントを交換するだけで、飼料イネも、トウモロコシも、予乾牧草も1台で収穫でき、高品質のサイレージが生産できる―そんな汎用性の非常に高い画期的な収穫機が熱い注目を集めている。汎用型飼料収穫機 SMR1000（以下SMR）だ。生研センターが国策である飼料作物増産の決め手としてヤンマー（株）、（株）タカキタと共同開発した。

耕畜連携や稲発酵粗飼料（以下WCS）の先進地・岡山県でSMRを一番最初に導入したのは、津山市でコントラクター事業を営むアグリアシストシステム（株）だ。もともと代表の石原聖康さんと福島康仁さんは酪農の傍ら平成8年から共同で収穫作業の請負を行っており、平成12年からは飼料イネの生産急増に対応して立ち上げられた津山地区飼料生産コントラクター組合に乞われて参加し、役員も務めていた。たまたま数年前に、別の収穫機の実用化試験に立ち会った際「一連の作業が2人でできる収穫機があったらいいな」と漏らした言葉が生研センターに聞き入れられ、SMRの開発グループに参加することになったのだ。完成すればこれを軸とした体系に変えたいと考えた2人は、待望のSMR発売を機に平成21年2月、同組合から独立し、翌3月に同社を設立。早速「強い農業づくり交付金」を使ってSMRを購入し、コントラクターとしてトウモロコシと飼料イネ、牧草の収穫作業を請け負っていった。能率はトウモロコシは1日1.5ha、飼料イネは1.2ha。以前の体系は刈り取る人、細断型ロールベーラを操作する人、ラップ作業をする人と計3人必要でしたが、SMRでは刈り取りとロールベーラ作業が1人でできるので、ラップ作業の1人と合わせて2人で作業できます」と満足そうに話す石原代表。できたロールは、ほ場渡し。畜産農家が搬送しやすいようロールを進入路の入口に集めて置くが、ラッパーが能率よくそこまで運んでいけるようSMRのオペレーターは刈り取りの順路を考えながら作業するそうだ。これもプロならではの省力化の工夫。こうした能率アップと人件費低減で請負料金が以前より少し安くなり、農家から喜ばれている。福島さんも「SMRは小回りが利き能率がいいですね。ヤンマーの6条刈りコンバイン用の足回りだからです。方向転換も1点で旋回できるので、狭い所にもってこいです。SMRは自分達が作ったという自負があります。生研センターでは使う私達の意見や要望をよく聞いてくれました。例えばバックモニターのカメラの位置と角度にしても『センターでなるべく高い位置に持っていき、一番低い手元から後ろまで全部見える位置に』と要望しました。最初は景色がよく見えたけれど肝心の真下が見えない。次は真下はよく見えたがバックの障害物が一気に現れるので危ない。何度か改良して最終的に注文した通りになり、見やすくなりました」

石原代表

今年は約130haに拡大 県全体の半分以上

昨年、受託した面積は県北の計94haで、県全体の約半分にあたる。さらに水田利活用自給率向上対策による助成金（10a当たり8万円の交付金）が新たにできたために作付けが増えている飼料イネは、「SMRで生産されたWCSは品質がいい」と評判になり、耕種農家からは「刈ってほしい」、畜産農家からは「WCSを使いたい」という要望が広域から出てきた。そのため今年からは県南の仕事も耕畜の橋渡し役をしている「おかやま酪農農協同組合」が斡旋してくれることになり、すでに約70km離れた岡山市西大寺から1カ所（2.4ha）依頼が来ているとか。それらも入れて今年は昨年より20～30ha増える見込みだ。

「長年にわたる下地があったから収入がある程度見込め、ここまでこれました。受託が増えるということは信頼されていると理解しています。コントラクターの仕事は良い餌となる高品質のサイレージを作ること。品質が悪いと次に仕事が来ません。原材料の飼料作物をいかにして1年以上経っても品質が変わらない良い餌にしてゴールである牛の口に与えるか。しかも流通に乗り、TMRにも利用できる良い餌。これが私達が最も重要視することです」と石原代表は強調する。そのために何事にも手を抜かず、資材にもこだわって特にサイレージの品質を左右するフィルム等はテストを重ねて厳選する。作物自体も生育状態が良くないものは収穫を断ることもあるそうだ。

「餌の品質は自分の牧場で試しますが、牛の嗜好性は上々です。14カ月経ったWCSも表面にピンホール程の穴がありましたが、高密度だから品質は全く低下していませんでした」と自信を強める福島さん。石原代表も県下一円から寄せられる期待の大きさをひしひしと感じながら胸を張ってこう言った。

「今後5～10年で農業は大きく変わるでしょう。農家の平均年齢が70歳以上になりますからね。それでも農業を継続できるよう農家にとって負担が大きな作業を引き受け、アシストという社名どおり手助けをしていきたいですね。そのためには人も機械ももっと入れ、ノウハウを蓄積していきます」

福島さん

トウモロコシ用アタッチメントを装着したSMR

SMRでトウモロコシを収穫

ラッピングマシーンで牧草のロールをフィルムでラッピング

飼料イネ用アタッチメントを装着したSMR

先進農業 ワンポイント

- ☑何事にも手を抜かず高品質の製品づくり。
  刈り取りの順路を考察し、畜産農家が
  搬入しやすくする工夫でプロならではの省力化を実施。
  能率アップと人件費低減で広域から依頼と信頼。
- ☑高齢化に対応すべく、農家の負担が大きな
  作業を引き受け、社名どおり「アシスト」を実現。
  耕畜連携の要となり事業を展開。

沖縄県糸満市
玉城（たまき）農場・玉城哲弘さん（47歳）
経営規模：小菊／15,000坪（露地12,000坪、平張りハウス3,000坪）

正月と彼岸に照準を当て計画的に生産・出荷 高品質な電照小菊を15000坪栽培

「沖縄で一番」を目指し、後継者育成にも注力

玉城哲弘さん

日本一の小菊の産地を引っ張るリーダー

青い空の下、碧い海に囲まれて亜熱帯圏特有の豊かな自然と文化が溢れる沖縄。冬でも最低気温が15度前後と温暖な沖縄で花といえばハイビスカスやブーゲンビリアが思い浮かぶが、墓参用など供花の代表格である小菊の生産量も沖縄が日本一なのだ。とくに冬場は全国の流通量の95％以上を占めるという。なかでも沖縄本島の最南端、那覇から車で約40分の糸満市は、隣の読谷町と1、2を争う小菊の大産地で、需要期に合わせて人工の光で開花をコントロールする「電照菊」栽培が盛んだ。あちこちに点在する菊畑には裸電球が多数吊るされ、夜になるとそれらに灯がともってまるでイルミネーションのような幻想的な光景が暗闇の中に浮かんで見える。

1軒あたり2,000～5,000坪程度を家族で営む菊農家が多い中、社員7人とアルバイトを10数人雇って約15,000坪もの大面積を経営し、花の専門農協「沖縄県花卉園芸協同組合」（通称「太陽の花」）に出荷しているのが、玉城農場の玉城哲弘さんだ。経営規模と出荷量がトップクラスであるだけでなく栽培技術にも秀で、指導農業士に認定されて地域のリーダー的存在となっている。

電照用の裸電球が取り付けられた菊畑

作目を小菊に絞り 正月と彼岸に短期決戦

3,000坪から始めた菊栽培を約30年で5倍の15,000坪まで拡大し、「太陽の花」ブランドに安定的に出荷するまでになったのは、高品質の菊づくりを目指して様々な努力を重ねてきたからだ。

まず、作目を小菊に絞り、出荷も需要ピーク時期だけに絞るなど、効率を重視した栽培・管理・販売を追求してきた。

「以前は小菊を70％、輪菊を30％栽培していましたが、作業の効率性を高めるために小菊100％に切り替えました。輪菊は単価は高いですがコストがかかるし技術が必要ですからね」

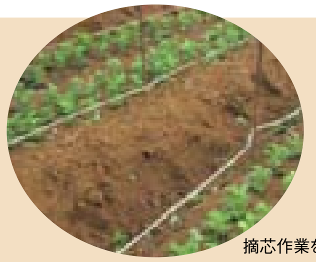
また、もともと気候が温暖な沖縄では年中露地で菊栽培が可能だが、「出荷を小菊の需要が多い正月用とピークとなる3月の彼岸用をメインに11月前半から7ヵ月間に集中させ、5月末で出荷は全て終了します」。

糸満市の名所・平和祈念堂

すくすく育つ露地栽培の菊

FUN! FUN! YANMAR

ヤンマートラクターEG775は、プラウで畑の耕起をしたりフロントローダをつけて堆肥をまくのに使っていますが、力が強くていいですよ。


摘芯作業を終えた苗

玉城さん（左端）と高校生アルバイトの皆さん

品種を白、黄、赤の3種類に絞っているのも作業効率を上げるため。同一品種で生育が揃い作業が一斉に行えるからだ。品種を変えるのは5年ごと。市場動向に基づき、生産者としても作りやすい品種を導入する。

平張りハウスや土づくりで秀品率は最大90％超

また品質向上と計画出荷を可能にしたのが、平成14年にいち早く県の補助事業を利用して導入した平張りハウスだ。何しろ沖縄は台風の到来が多く甚大な被害を受けることも少なくない。被害を最小限に抑えるために開発されたのがこの施設で、フレームに風が抜け雨も通すネット（目合いは天井は1ミリ、側面は0.6ミリ）を取り付けた高さ2.3mほどの簡易なハウスだ。ビニールハウスやガラス温室と比べて通風・透水性がよく、雨に強く打たれて土が傷むということもない。また、倒れにくく建築費も割安ということで、ここ数年一気に普及してきた。

「強風での菊の茎葉の損傷、茎折れや湾曲が少なくなり、品質が良くなって市場の評価も高まりました。マメハモグリバエなど害虫の侵入も防げ、防除の回数や薬剤の使用量が減って大助かりです。コストの大半が人件費と農薬代ですからね」

他にもボリュームを出すための「中途再電」技術などを駆使した玉城さんの菊は、秀品率が平均75％、品種によっては90％を超える。それで満足せず品質向上を目指して努力を怠らない。4月と5月は畑の準備と親株作りに専念し、ヤンマートラクターEG775で畑をよく耕して堆肥をたっぷり投入する。

「30年近く作っていると畑の土も弱ってきます。ですから夏場の土づくりには力を入れ、毎年の耕起だけでなく土壌消毒も5年に1回、品種を変えるごとに行います」

畝を立てたら7月から苗の植え付けが始まり、2月前半まで続く。小菊の生産期間は120日。その間、植え込み後も間引き、剪定、エンジン動噴を使っての消毒、そしてカマで行う収穫まですべて手作業だ。

フロントローダを装着したヤンマートラクター EG775

学生と主婦を雇用し後継者育成も目指す

手がかかるこれらの作業を一手に任せているのが、全員30才以下という7人の社員と主婦や高校生のアルバイトだ。なかでも高校生は毎日下校後19時から21時までの2時間十数人が作業に勤しむ。つながりで友達を呼んで来るので、人集めの苦労もほとんどない。現在玉城さんの片腕として雇用関係を取り仕切る波平渡さん（28歳）も、9年前に高校3年でアルバイトに来たのが始まり。

「菊栽培が面白くなり、正式に入社しました。同じ目線で話をしてくれる社長にずっとついていきます」と信頼を寄せる。

「若い人はものの考え方が前向きで、馬力が違います。礼儀作法や我慢強さ、責任感など、仕事を通して学んでくれているのも嬉しいですね。膨大な量の仕事も、手を動かしつつ同年代が皆でわいわい言いながら一気にやったら楽しいし、能率が上がります。そうした労働力としてだけで若い人を使っているのではありません。高齢化や耕作放棄が進む菊づくりを引き継いでくれる後継者として意欲ある若い人を育てたいというのが、私の一番の願いなのです。輸入物も増えていますが、高品質な国産小菊の未来はまだまだあります。不景気でも消費者は花を贅沢品とは思わず需要はしっかりありますからね」

玉城さんの熱い思いが若者の心をつかみ、さらなる規模拡大と経営内容が充実していく。「沖縄で一番になる」という玉城さんの夢がかなう日もそう遠くないだろう。

社員の波平渡さん

先進農業 ワンポイント

- ☑ 5年ごとに市場動向に基づいた品種を導入。同時に土づくりに力を入れ土壌消毒を実行。他産地より高品質な菊づくりを目指し「太陽の花」ブランドに出荷。
- ☑ 指導農業士に認定されたリーダーシップで若者の心をつかみ、高齢化や耕作放棄が進む菊づくりに意欲のある後継者を育成。さらなる規模拡大と経営内容の充実を図る。

フィンガーシフト

指先で楽々操作。速度調節も思いのまま。

変速関係の操作部は、右アームレスト上に配置。ひじを置いたままで楽々操作することができます。また、16速の主変速レバー操作だけで作業にマッチした速度選択が可能。さらに、速度調整ダイヤルを使えば0.1km/h単位で速度を微調整でき作業に最適な速度が選択できます。

静音キャビン

クラス最高の静けさと広々とした快適性を実現。

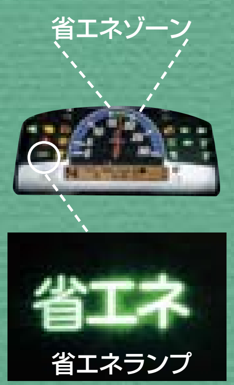
キャビン単体の遮音性の向上とフレーム構造・エンジン防振構造の採用で、75dB以下というクラス最高の静音性を実現。さらに、フルフラットフロア+幅広間口の採用により、ゆとりある作業空間と快適性を演出。

PTO昇降連動

使い勝手が好評！使えばわかるスグレモノ。

PTOの「入・切」はトラクターの走行に関係なく、手元のスイッチでワンタッチ操作。クラッチペダルとの連動・独立・昇降連動の切替えもダイヤル1つで行えます。昇降連動では作業機の上昇と連動し、自動的にPTOの回転が停止。作業に大きな安心感をプラスします。

省エネモード



負荷の少ない作業では、エンジン回転を下げて燃料消費を抑える。

燃費効率の良い作業状態にある時、省エネランプが点灯。(エンジン回転数1500〜2100rpm・エンジン負荷45%以上)省エネモードでは、エンジンの定格回転時より10〜20%の燃料消費が削減でき、経費削減に貢献します。

※ほ場条件、作業内容によっては適用できない場合があります。

EG437[J] 37PS **EG441[J]** 41PS **EG445J** 45PS

EcoTra EG400 Series

お客様が認めたEG400ここがスゴイ！

キャビンの広さに満足！

福島県大沼郡
金田 実さん

以前のトラクターはキャビンが狭かったけど、EG400は広くて快適。

あぜ塗り作業で旋回する時に、PTOを止めないとあぜを削ってしまうことがあったが、EG400はあぜ塗り機を上げると自動でPTOが止まりとても便利だ。

最適車速、エンジン馬力を目いっぱい使える機械を待っていた！

熊本県八代市
福田 幸浩さん

作業効率を上げるために、思い通りの車速が出せる機械がほしかった。今までの変速操作と比べると無段変速で、ペダル変速も楽。手持ちの作業機を活かせて、最適な作業速度が自由に選べるのがいいね。

省エネモードに半信半疑だったので検証のため、1度目の粗起こしは定格回転での作業で、2度目の耕うんを省エネモードで作業してみたら本当に燃費が伸びていることを実感し満足しています。

作業中に指先だけで変速できる！

徳島県美馬市
逢坂 利人さん

作業中に思い通りの車速設定ができるうえ、増速・減速が指一本で自在に行なえ、特にまくら地旋回の時は、効率が上がります。

EG400のキャビンは、天井が高く広々としているうえ、サイドウィンドが開き換気もできるので大変快適です。

省エネモードで経済的。

大分県中津市
髙橋 博文さん

コンクリートあぜをこれまで何度か削ってしまったが、PTO昇降連動があるとロータリを上げれば自動でPTOが止まるので安心して旋回ができます。

省エネモードでは燃費が良いだけではなく、エンジン音も静かになるので快適に作業ができます。

副変速操作なしで簡単変速！

青森県三戸郡
山道 金太郎さん

従来の変速レバーより、フィンガーシフトの方がデザインもよく使いやすいね。あぜ塗り作業で次のあぜに移動する時に、副変速の操作がいらず簡単でスムーズに移動できる。

キャビン内がとても静かで、長時間の作業でも疲れません。

カンタン
だれにでも操作しやすく安心して作業ができます。

キレイ
丁寧に効率よく美しい植付けが行えます。

ラクラク
作業者も補助者も、余計な手間はかけさせません。

RJ4 4条植え / RJ5 5条植え / RJ6 6条植え

ヤンマー 乗用田植機 New

RJ6

カンタン

足で変速できるから、ハンドル操作は両手でしっかり

ペダル変速 e-move

ペダルを踏めば動き、離せば止まります。また、ペダルの踏み具合によりスムーズに加減速できるので、両手でハンドルを握り、前を向いたまま、植付けはまっすぐキレイに。初めての方でも、カンタン操作で安心して作業ができます。

ペダルだけで4つの操作

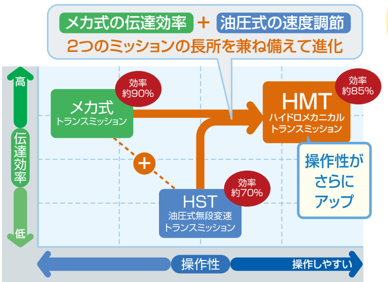
アクセル・クラッチ・ブレーキ連動

変速に加え、ペダルを離せば、クラッチが切れると同時にブレーキがかかるので、坂道やほ場の出入りも安心。また、アクセル連動で停止時や苗つぎ時はエンジン回転が下がるので、静かで経済的です。

高い伝達効率で、常にエンジン出力をフル活用

HMT (Hydro-Mechanical Transmission)搭載

速度を無段階に調整できるうえ、エンジン出力をロスなく伝達するので、湿田走破性もよく、ゼロ発進からショックのないスムーズな変速を実現。常に最適速度が選べ、快適作業ができます。



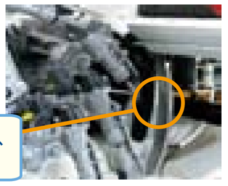
キレイ

疎植から密植まで1株1株キレイに植付け

ジャストアーム

手植えのように苗をやさしく運び、高速作業でもキレイな植付けが可能です。

37〜85株まで、株数を幅広く選択できる。



苗をやさしくつつんで運ぶ、前方&側方ダブルガイド。

ラクラク

植付けと同時に旋回跡を整地

すこやかロータ(Z仕様)

枕地の旋回跡をキレイに整地するので、トンボでの枕地ならしがいらず、補助者はラクラク。また、枕地の植付け精度が向上し、キレイな植付けが行えます。

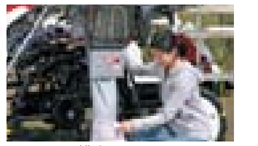
枕地ならしは一切不要!

転び苗や浮き苗を防ぎます。

植付け前　植付け後(すこやかロータ使用後)

ホッパが左右に開くので、残った肥料の排出がカンタン

高速排出ホッパ(F仕様)


両サイドの排出口を開けて、残った肥料を排出できます。

■主要諸元

名称(商品型式名)		RJ4	RJ5	RJ6
区分		–	–	U
機体寸法・重量	全長×全幅(作業時)×全高(mm)	2815×1565(2030)×1550	2890×1845(2395)×1775	2890×1845(2760)×1775
	最低地上高(mm)	340	365	
	機体質量(重量)[施肥機付](kg)	383[436]	442[500]	472[534]
エンジン	種類	空冷4サイクルOHVガソリン		
	総排気量(ℓ{cc})	0.301{301}	0.357{357}	
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)	5.8{7.9}/3600(最大7.4{10.0})	7.1{9.7}/3600(最大8.8{12.0})	
走行部	変速段数(段)	前進2・後進1 (HMT無段変速)		

YWH1500

ヤンマー 飼料コンバインベーラ New

汎用性とサイレージ品質にこだわり、作業効率・操作性を更に高めたニューフェイス!!

牛が喜んで食べる高いサイレージ品質

コンディショニング効果の高いフレール式刈取部

籾や茎葉にすり傷をつけ、砕きながら収穫することで、硬い茎をやわらかくしながら細断するため、牛が喜んでたべる、質の良いサイレージをつくることができます。

コンディショニング効果で発酵を促進

コンディショニング効果により、ベール内の発酵を促進。また、穂と茎が均一に混合できることから栄養価にバラツキがなく、高品質で嗜好性が高いサイレージを作ることができます。

大きなボディでもラクラク・スムーズ

優れた走行性・操作性

丸ハンドル+FDS

ヤンマー独自の「丸ハンドル+FDS」の相乗効果により、走行性・操作性が更に向上しました。ハンドルの操作量に応じて優れた旋回性と直進性を発揮するFDS(フルタイムドライブシステム)。ハンドルを握ったままでホーンと刈取部の昇降・フィットステアリングの操作が可能です。

ベールを固く梱包する

スチールローラ&ベルト式梱包部

梱包部には、スチールローラに加えて平ベルトを採用。巻き始めでも中心部を高密度に成形できます。さらにベールが大きくなれば、スチールローラと平ベルトで全方向から高い圧力をかけるので、梱包密度が高く、形の良いベールが仕上がります。また平ベルトがあることで、梱包時や排出時のこぼれも少なくなりました。

梱包密度
●従来機
100〜120kgDM/㎥
↓
●YWH1500
150〜180kgDM/㎥※

梱包密度 従来比 1.5倍

※KgDM/m³とは、乾物密度の事です。

スピーディに梱包する

ネットバインディング方式

ネットバインディング方式の採用により、ベール梱包時のロスも軽減できます。

■主要諸元

名称(商品型式名)		YWH1500
機体寸法・重量	全長(mm)	4435
	全幅(mm)	2335(2435)
	全高(mm)	2375
	機体質量(重量)(kg)	3767
エンジン	種類	水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル
	総排気量(ℓ{cc})	3.318{3318}
	最大出力/回転速度(kW{PS}/rpm)	60.7{82.5}
走行部	変速方式	HST無段変速×副変速
刈取部	刈取方式	フレール式
	平均切断長(mm)	100〜150
梱包部	梱包方式	スチールローラ+平ベルト
	ベールサイズ(mm)	直径1000×幅860
	バインディング方式	ネットバインディング

EG300 Series

ヤンマー 乗用型トラクター New

"エコトラ"は、進化し続ける新時代の高性能トラクター。

EG326(J) 26PS / EG328(J) 28PS
EG330(J) 30PS / EG334(J) 34PS

静かで広々、格別の心地よさを生む大型キャビン。

このクラス、業界No.1の、圧倒的な静けさ。

静音キャビン(Q仕様)

新しいフレーム構造など、徹底した低振動・低騒音設計が定置ハイアイドルでクラス業界最高となる77デシベル※の静音性を実現。作業中でも音楽を快適に楽しめます。※自社試験データ

77 dB

段差がなく足元ゆったり、乗り降りもしやすい。

フルフラットフロア+幅広間口

足元には、段差がない広々スペースを確保。ゆとりある作業ができます。さらに、間口も広いので乗り降りもラクにできます。

足元広々のびのびと作業できる

高能率&経済的。

全域でパワフルな性能を発揮。さらに、地球環境にやさしく。

TNV直噴エコディーゼルエンジン

作業中の負荷にもエンジン回転が落ちることなく常にパワーは安定。どの回転域でもねばり強い底力を発揮し、トラクターの作業性能を最大限に引き出します。また、排ガス規制※に対応しています。
※特殊自動車2次規制

負荷の少ない作業では、エンジン回転を下げて燃料消費を抑える。

省エネモード

燃費効率のよい作業状態にあるとき省エネランプが点灯します。(エンジン回転1500〜2100rpm、エンジン負荷45%以上)省エネモードでは、エンジン定格回転時より10〜20%の燃料消費が削減でき、経費削減に貢献します。◎ほ場条件、作業内容によっては適用できない場合があります。

カンタン操作のフィンガーシフト。

作業機やほ場条件によって違う最適速度が、軽いタッチで自在に選択可能。

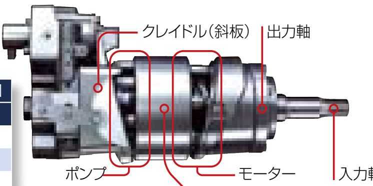
フィンガーシフト

主変速レバーと無段階速度調整ダイヤルをアームレストに装備。どちらも指先だけで操作でき、肘を掛けた楽な姿勢のまま、軽快にショックのない変速操作が行えます。さらに、アームレストは前後上下に調節可能なので最適な位置で操作でき、長時間作業でも疲労を軽減します。

伝達効率が高く、操作性も良い、農家の皆様が待ち望んだ変速機構。

エコトラ高効率無段変速 I-HMT無段変速トランスミッション

油圧式無段変速装置の優れた操作性とメカ式変速装置の高い伝達効率を両立した、HMT(油圧-機械式無段変速装置)。I-HMTは、そこから遊星ギアの廃止により抵抗ロスを減少させ、さらに伝達効率のアップに成功しました。作業時にも移動走行時にも、ショックのないスムーズな変速ができます。また、コンパクト化によりオペレーションスペースが広くなり、快適性が格段に向上。しかもエンジン出力をムダ無く使用でき、さらなる低燃費を実現します。



■主要諸元

名称(商品型式名)		EG326[Q]	EG326J[Q]	EG328[Q]	EG328J[Q]	EG330[Q]	EG330J[Q]	EG334[Q]	EG334J[Q]
区分		無段変速仕様							
機体寸法・質量	駆動方式	4輪駆動							
	全長:単体(mm)	3160							
	全幅(mm)	1395[1405]				1450		1485	
	全高(mm)	1945[2160]	1990[2160]	1970[2185]	2015[2185]	1995[2210]	2040[2210]	1995[2210]	2040[2210]
	最低地上高(mm)	345				375			
	機体質量(重量)(kg)	1415[1560]		1445[1580]		1495[1655]		1505[1665]	
エンジン	種類	水冷4サイクル3気筒直噴エコディーゼル							
	総排気量(ℓ{cc})	1.642{1642}							
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)	19.1{26}/2600		20.6{28}/2600		22.1{30}/2700		25.0{34}/2800	
走行部	変速方式	I-HMT							
	軸距	1745							
	輪距前輪	1100				1125			
	輪距後輪	1040(標準)/1170 2段		1070(標準)/1145 2段		1150-1390(標準:1150)6段		1145-1445(標準:1145)5段	
	変速段数(段)	無段	無段(副:2)	無段	無段(副:2)	無段	無段(副:2)	無段	無段(副:2)
PTO		正転4段 逆転1段							
油圧揚力(N{kgf})		14700[1500]							

ヤンマー
新商品登場!
新開発された優れもの。

ご使用前に点検・診断を。

コンバイン（点検・診断）

AJ219

Maintenance

ヤンマーの農業機械は、あなたの仕事のパートナー。いつまでもよき相棒として、安全にご利用いただくために、日頃の保守点検は欠かせません。このページを参考に、刈取作業の前に愛機をチェックしましょう。

＜ご注意＞
●各メンテナンスの要領は型式によって異なります。取扱説明書を参照してください。●その他、点検により不良箇所、または不安な箇所を見つけられた場合は、お気軽に最寄りの販売店･JAにご連絡ください。

※コンバイン各部は可動部分、刃物関係が随所に配置されているため、十分ご注意ください。

【昨年、選別やロスは大丈夫でしたか?】

丹精込めて育てられたお米をキレイにロスなく収穫するため、事前に点検いただきたい箇所をご紹介します。
※ロスとは、刈り残しやこぎ残し、コンバイン後部からの飛散をいいます。

あなたもチェック!

■刈り残しを防ぐ〈刈刃･刈取部のタインの点検〉⇨1･2
■こぎ残しを防ぐ〈こぎ歯･切刃の点検〉⇨3･4
■飛散を防ぐ〈クリンプ網〉⇨5

ワンポイントアドバイス

チェンへの注油はコマメに!

各搬送チェンへの注油をコマメに行っていただくことによりチェンの寿命は伸びます。午前や午後、あるいはほ場ごとの刈り始めには注油をしましょう。

01 刈刃

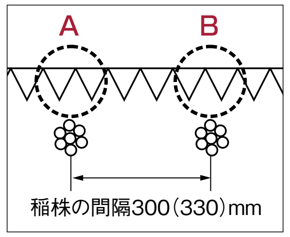
稲や麦を株元で切断します。

刈刃の損傷や、摩耗がないか点検します。また、刈刃と受刃の隙間が適切か確認してください。
※隙間が0.1mm〜0.3mmになるよう調節ナットで調整してください。

こんなときは調整または交換

●刈刃の隙間が大きい。
●刃が欠けている。摩耗している。

そうしないと→<予想されるトラブル>
●刈り残しが増えます。●搬送姿勢が悪くなります。
●株の引抜きが多くなります。



<点検のしかた>

稲株の間隔300(330)mmにあたるA、Bの周辺が特に摩耗、破損しやすい箇所です。
※作業前や格納前に注油することが刈刃を長持ちさせるポイントです。

<注意ポイント!>
刈取部を上げて作業する時は、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、ケガをする恐れがあります。
刈刃の点検をする時は、厚手の手袋を着用し、刃先を触らないでください。ケガをする恐れがあります。

※交換が必要な場合はお店にご相談ください。

02 刈取部のタイン

稲や麦の搬送姿勢を整えます。

こんなときは交換

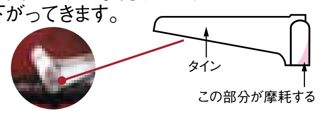
●タインやガイドが摩耗している。 ●タインが欠落している。
●タインが取り付いているチェンが緩んでいる。 ●ガイド棒が変形している。

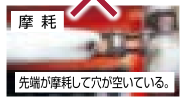
そうしないと→<予想されるトラブル>
●刈り残しが増えます。 ●搬送姿勢が悪くなります。

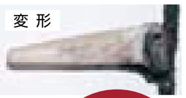
正常なタイン

交換が必要なタイン

正常なガイド棒

●下図のように摩耗すると、タインが下がってきます。


交換が必要なタイン




<タインを使用している主なチェン>

引起しチェン	補助搬送チェン
上部搬送チェン	穂先搬送チェン

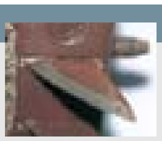
※交換が必要な場合はお店にご相談ください。

03 切刃

脱穀で発生したカン切れを細かくします。
穂先の穀物を脱粒します。

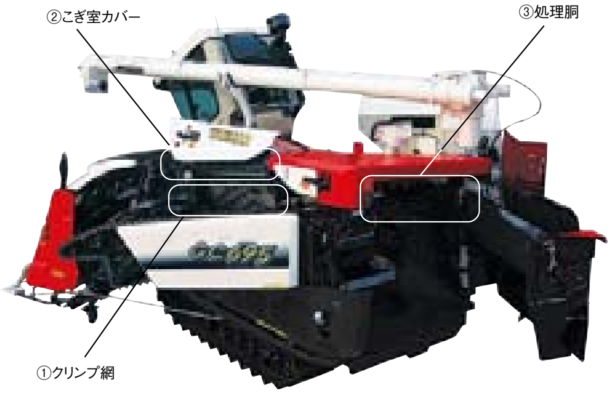
切刃が摩耗していないかを点検してください。

こんなときは交換



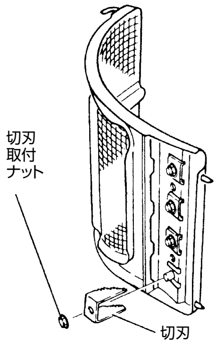
●切刃が摩耗している。●切刃が欠損している。

そうしないと→<予想されるトラブル>
●こぎ残しが増えます。●無駄な馬力を使用します。
●こぎ胴から「ゴトゴト」音がして能率が下がります。

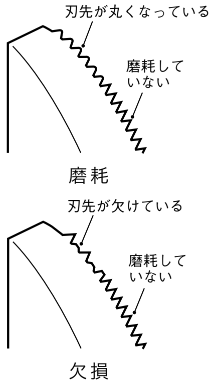


<点検･交換のしかた>

●こぎ胴切刃の場合
①クリンプ網部
1)フィードチェンをオープンしてください。
2)クリンプ網を取り外してください。
3)クリンプ網の切刃取付ナットを外して、切刃を取り外してください。
②こぎ室側
1)こぎ室カバーをオープンしてください。
2)こぎ室カバーの裏側にも切刃があります。
3)切刃台の切刃取付ボルトを外してください。



●処理胴切刃の場合
③処理胴部
1)カッターをオープンして、ボルトM10(3本)を取り外し、処理胴を後方に引き出します。
2)ボルトM8(4本)を取り外し、処理胴受け網を外します。
3)切刃の取付ボルトを取り外してください。



<注意ポイント!>
※切刃の手入れや交換をする時は、厚手の手袋を着用し、刃先を触らないでください。ケガをする恐れがあります。
※組付は逆の順序で行ってください。

※切刃の位置と点検･交換の要領は型式により異なります。取扱説明書を参照してください。

04 こぎ歯

脱粒します。(作物を整えます。)穀物を後ろに送ります。

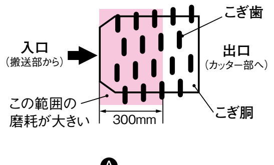
こぎ歯が摩耗して細くなっていないか、ガタツキがないかを点検してください。

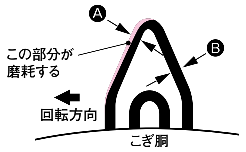
こんなときは交換

●こぎ歯が摩耗している。●こぎ歯が変形している。
●こぎ歯が欠品している。

そうしないと→<予想されるトラブル>
●こぎ残しが増えます。●無駄な馬力を使用します。
●こぎ胴から「ゴトゴト」音がして能率が下がります。

<点検･交換のしかた>





こぎ歯の磨耗は脱穀部の入り口から300mmまでを中心に確認してください。
Ⓐ部分が磨耗し、Ⓑの線径の2/3になった場合は交換してください。

<注意ポイント!>
こぎ歯は上図Ⓑで脱穀中の力を受けるので、こぎ歯を反転して使用しないようにしてください。

※交換が必要な場合はお店にご相談ください。

05 クリンプ網

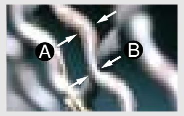
脱粒します。選別します。(籾･カンを大別します。)

クリンプ網目や、揺動装置の桟がワラクズ等でふさがれていないか点検してください。
※さらに、異物混入による等級の低下を防ぐため、籾の搬送経路もエア清掃しておきましょう。

こんなときは交換

●クリンプ網が摩耗、破損している。
●網押え板が摩耗、破損している。

そうしないと→<予想されるトラブル>
●こぎ残しが増えます。
●カン切れや枝梗付き粒が増えます。

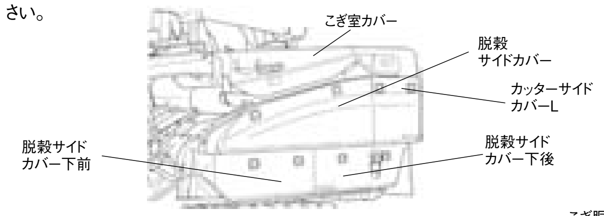


Ⓑの線径がⒶの線径の1/2であれば、クリンプ網の交換をしてください。

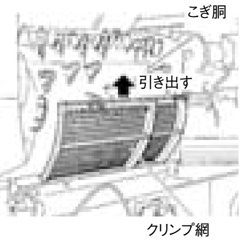
<点検･交換のしかた>

●フィードチェンのオープンのしかた
1)刈取部を最下げ状態にしてください。
2)本機･左側のカバー類を取り外してください。
3)こぎ室カバーをオープンしてください。
4)フィードチェンガイドを、機体前方へ回動してください。
5)選別ベルト及びカッター駆動ベルトを外してください。
6)ロックレバー前･後を解除してください。
7)フィードチェンバネを上に持ち上げながら、チェン台をゆっくりと手前に引いてください。

※クリンプ網が引き出しにくい場合は、こぎ胴を手で少し回して、こぎ歯の位置を変えてください。



●クリンプ網の脱着のしかた
1)フィードチェンをオープンしてください。
2)クリンプ網を矢印方向に引き出してください。



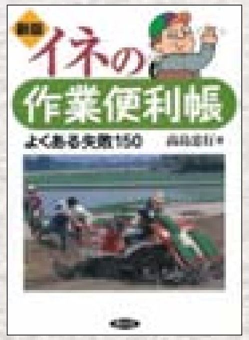
※点検・交換の要領は型式によって異なります。取扱説明書を参照してください。

旬の農業書 VOL.17

充実した営農へのヒントがいっぱい。
いま旬の農業書をお届けします。

「現代農業」バックナンバープレゼント! Present

「現代農業」バックナンバーを進呈します。
ご希望の方は、ご住所・お名前・お電話番号・年齢をご記入の上、FAXにてお送りください。
年何冊くらい雑誌図書を購入されているか、ご回答願えれば幸いです。
また、この「旬の農業書」コーナーのご感想やご意見もお願いします。
なお、プレゼントは先着20名様とさせていただきます。有効期限は2010年9月末とさせていただきます。
＊個人情報は、プレゼントの送付や新刊案内などのためにのみ使用します。
号数は、指定できません。ご了承ください。



新版 イネの作業便利帳
よくある失敗150

高島忠行 著
定価：1,680 円（本体 1,600 円、税 80 円）
出版：農山漁村文化協会（農文協）

大きな流れとなっている有機物をうまく活用するための条抜き栽培の技術、また有機栽培で一番大変な雑草退治も、米ヌカ除草やチェーン除草などの最新技術も加えて、現場でよく起こる失敗を入り口に誰にでもわかる解決法を詳述。

現代農業別冊 農家が教える 雑穀・ソバ 育て方・食べ方
アワ、キビ、ヒエ、アマランサス、シコクビエ、モロコシ、キノア、ハトムギ、ソバ

農文協 編
定価：1,200 円（本体 1,142 円、税 58 円）
出版：農山漁村文化協会（農文協）

ミネラルを豊富に含む雑穀は健康機能性の高さで今、注目を浴びている。雑穀の由来、栽培方法、脱穀・精白などの調製技術、そして先達の工夫と知恵がこもった食べ方を最新情報をもとに収録。伝統的な農具と技術など、雑穀の魅力満載！

だれにもできる 土壌診断の読み方と肥料計算

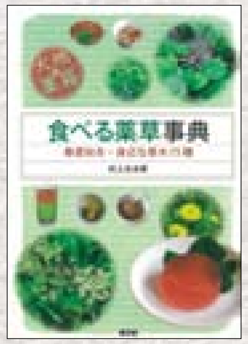
JA 全農肥料農薬部 著
定価：1,890 円（本体 1,800 円、税 90 円）
出版：農山漁村文化協会（農文協）

診断数値の読み方と、肥料代を抑え収量・品質を高めるための肥料計算、堆肥に含まれる肥料成分を考慮して化学肥料を減らす計算方法など、イラスト入りでわかりやすく解説。低コスト施肥の実践テキスト。

だれでもできる新エクセルで農業青色申告(CD-ROM付)
消費税対応・経営分析もできる農業会計システム

塩光輝 著
定価：2,835 円（本体 2,700 円、税 135 円）
出版：農山漁村文化協会（農文協）

青色申告に完全対応した複式簿記による会計ソフト付き解説書。本書は著者が農家の講習会を長年続ける中で改良を重ねてきた青申ソフトを事実上無料で公開して CD で提供することにより、市販の会計ソフトよりはるかに低価格で青色申告が平易にできる画期的ソフト。



大地の薬箱 食べる薬草事典
春夏秋冬・身近な草木75種

村上光太郎 著
定価：1,680 円（本体 1,600 円、税 80 円）
出版：農山漁村文化協会（農文協）

薬草の恵みをもっとも効率よく取り入れる方法は「食べる」こと。そして薬草になる植物は春夏秋冬いつでも身近にある。75 種の草木をおいしく食べる料理法を重視し、薬酒や薬草酵母、薬草茶の作り方まで紹介。

農家が教える 生きもの田んぼづくり
アゼ草管理からカバープランツ、魚道、水路補修まで

農文協 編
定価：1,200 円（本体 1,142 円、税 58 円）
出版：農山漁村文化協会（農文協）

「農地水環境保全向上対策」は正念場を迎える。本書は先進的な取り組み事例はもちろんだが、実践していくうえでの具体的な技術に重点をおきながら、農業の基盤となる田んぼ、水路、用水などの維持・管理や環境保全、そこから始まる新たな地域づくりへの技術も紹介する。

お問合せ・ご注文は農文協「田舎の本屋さん」まで
右記のいずれかの方法でご注文ください。

●郵　　便：〒107-8668 東京都港区 赤坂郵便局私書箱第15号 農文協「田舎の本屋さん」宛
●電　　話：03－3585－1141（9時～17時）
●インターネット：「田舎の本屋さん」http://shop.ruralnet.or.jp/

荷造送料：何冊でも1回400円。
お支払い：同封の郵便振替用紙でお支払いください。
お届け：1週間程度でお届けします。地域によって、もう少しお時間をいただく場合もございます。

ご注文専用フリーダイヤルを設置しました！

注文専用フリーダイヤル：0120-582-346（ごはんに みそしる）[平日 9：00～18：00]

注文専用フリー FAX：0120-133-730 [24 時間受付]

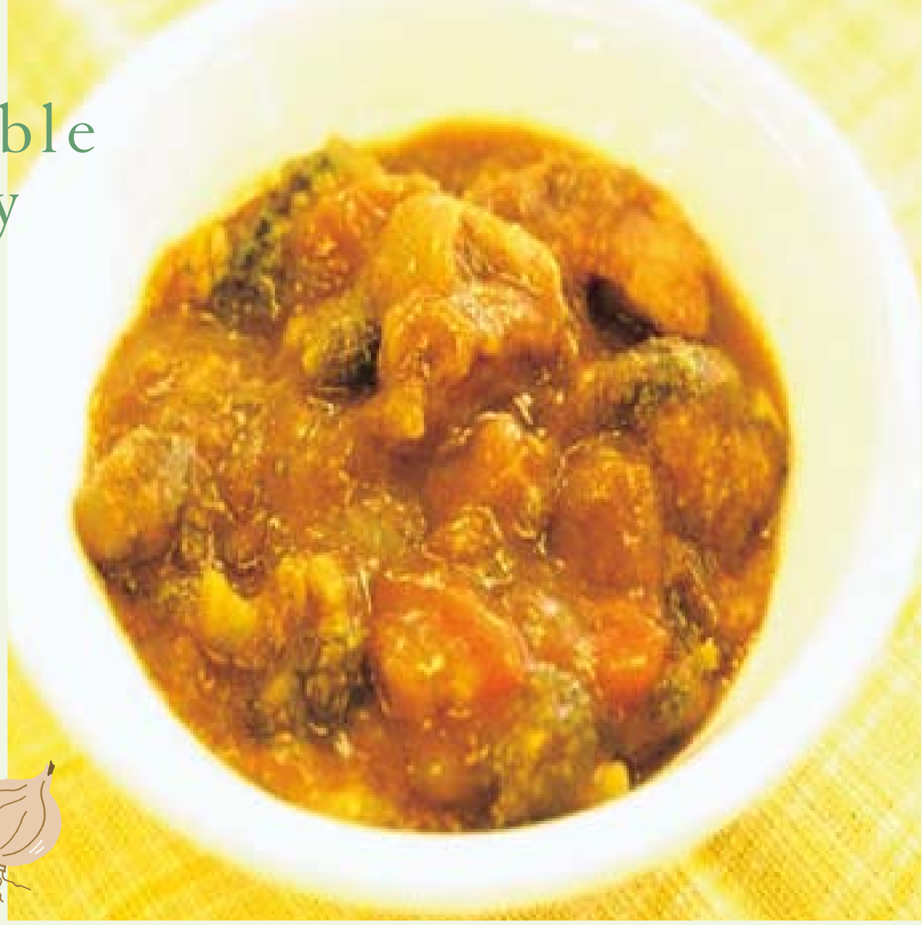
※表示価格は税込みです。

Healthy Cooking

身近な素材で手軽にクッキング!

みんな大好きな野菜カレー ―米粉の巻―

Vegetable Curry



美味しくてヘルシー 米粉の野菜カレー

大好きな野菜カレーを米粉でヘルシーに!市販のルーと比べて、油分や食品添加物の摂取が抑えられます。また、小麦粉を一切使わないので小麦アレルギーの方でも安心!

お肉を角切りにし、フライパンで表面に焦げ目がつくように強火で炒め、煮込み鍋に移し水を加えて煮る。野菜は食べやすい大きさに切り、フライパンで炒めて味付けをしたら煮込み鍋に入れる。米粉はフライパンで15分程度弱火で炒め、茶色くなり香ばしい匂いがしたらカレー粉を加えて混ぜながら軽く炒める。冷ましたあと、鍋の煮汁を少し加え、伸ばし、鍋へ入れじっくり煮込めば出来上がり。米粉は粒子が細かいのでダマになりにくく、なめらかなので簡単に伸ばすことができます。

辛さが苦手なら、牛乳やりんご、はちみつを入れた甘口カレーや生姜、にんにく、酢、りんごの配合割合によって味が変化するので自分だけのオリジナルカレーに挑戦してみてはいかが。

●調理時間:50～60分

《材　料／分量4人分》

<具>牛バラブロック…200g、塩…小さじ2/5 、バター…大さじ2弱、玉ねぎ …1個、じゃがいも…2～3個、人参…1/2本、青菜…1束、バター…40g、水…4カップ

<カレールー>バター…大さじ3強、米粉…60g、カレー粉…小さじ4、塩…小さじ1、こしょう…少々、生姜汁、にんにくすりおろし、酢、りんごすりおろし…適量

《作り方》

❶牛バラ肉は3cm角に切り、フライパンにバターを熱し、表面に焦げ目がつくように強火で炒め、煮込み用の鍋に移し、水を加えて煮る。

❷玉ねぎは千切り、じゃがいも、人参は一口大に切る。青菜はさっと茹でて水気をしぼり3～4cmの長さに切る。

❸フライパンにバターを熱し、玉ねぎを弱火で炒め、薄くこげ色がついたら❶の鍋に移し、塩、こしょうで味をつける。
さらにバターを加え、じゃがいも、人参を炒めて❶の鍋に入れる。

❹フライパンにバターを熱し、米粉を入れて弱火で15分程度木ベラで炒り続ける。茶色くなり香ばしい匂いがしたらカレー粉を加えて少し炒める。これを火からおろして冷ます。

❺❹に❶の煮汁を少しずつ加えながら伸ばす。全体が均一に薄められたら❶の鍋にもどし、材料が柔らかくなるまで煮続ける。
途中、生姜汁、にんにくすりおろし、酢、りんごをすりおろしたものを加えて好みの味をつける。
最後に青菜を加え、塩、こしょうで味を整えて出来上がり。
※辛口が苦手な方は、牛乳やりんごを加えるとまろやかな味になります。

写真レシピ提供／JA えちご上越米粉教室（新潟県）

教えてください。あなたのお家のステキな女性のこと。

アンケートをお送りいただいた方の中から30名様に図書カード(1,000円分)をプレゼント!
(掲載させていただいた方にはもれなくプレゼント致します)
ご応募締切:平成22年9月30日弊社到着分までとさせていただきます。

わが家のステキな女性へ!

Wonderful Women

北海道 とうちゃんからかあちゃんへ

我家の春の経営計画は、とうちゃんが作成します。毎年の事ながら民主党のマニュフェストと同じくらい立派です。しかし秋の収穫を終え、結果は100%達成したことは一度もありません。こんなわがままなおやじを支えてくれるのがかあちゃんです。農業っておもしろいよ。

宮城県 政直さんから寿子さんへ

共に一緒に働いてそばにいてくれてありがとう。今後の人生も孫に囲まれて長男夫婦と仲良く、明るい毎日が過ごせる様に長生きしよう♡

北海道 母さんから娘さんへ

専門学校に行っている娘、休みの時には手伝いをしてくれてありがとう。勉強もがんばっていますね。これからもよろしくね。

岡山県 (匿名)

23才と27才の孫がいます。現在、高校の教員です。妹は歯科衛生士で勤めています。どちらもすてきな美人です。

今回のワンダーフィールドも、
『農業で働くステキな女性 Wonderful Women』へ
ご家族の皆さまからのメッセージを大募集します。日ごろは照れくさくて、
なかなか面と向かって口に出しては言えない言葉や、思い、エピソードをハガキに書いて贈ってみませんか?
妻へ、母へ、娘へ、嫁へ・・・。
ワンダーフィールドがあなたに代わってお届けいたします。
(次号に掲載させていただきます。多数ご応募の場合は選考させていただきますのでご了承ください。)

応募要項

- 作品テーマ ● わが家のステキな女性Wonderful Women へ
- 作品文字数 ● 何文字でも結構です。応募ハガキにおさまらない場合は封書にてお送りください。また、写真等をお送りいただける場合も恐れ入りますが封書にてご送付ください。
- 送り先 ● 〒530−8321 大阪市北区茶屋町1−32 ヤンマー農機販売株式会社「わが家のステキな女性へ」係
  ※応募作品のご返却はいたしません。
- 締切 ● 平成22年9月30日弊社到着分
- 発表 ● 次号Vol.18に掲載いたします。多数ご応募の場合は選考させていただきますのでご了承ください。

応募はカンタン!こちらの綴じ込みハガキでどうぞ!
写真がある場合や書ききれない場合は恐れ入りますが封書でご送付ください。

*ヤンマーグループでは個人情報の保護についての法令を遵守し、お客様の個人情報の適切な運用・管理を行います。ご記入いただいたお客様の個人情報は、新製品やイベント等のご案内及びアフターサービスの充実などに利用させていただくこと以外、使用することはございません。

ホームページのご案内

楽しいブログも満載のヤンマーホームページをお楽しみください。

「ヤンマー TV」ボタンをクリックいただくとニューファーム SAYURI やオリーブ農園の楽しいブログコーナーをご覧いただけます。

ニューファーム SAYURI
オリーブ農園

「お客様起点」型ビジネスモデルへの変革に向け、

ブランドステートメントを決定

YANMAR
Solutioneering Together

ブランドステートメントは**「Solutioneering Together」**です。

「Solutioneering」とは「Solution」と「Engineering」二つの単語からなる造語です。

「Solutioneering」の提供こそが当社の存在意義・社会的使命であること、そして、お客様とともに(Together)永続的に発展していくことを表現しています。

当社の原点、そして強みでもある「エンジン」と、「エンジニアリング」に磨きをかけ、技術・商品・サービスを供給するだけにとどまらず、お客様が抱えておられる問題の解決策(ソリューション)をグローバルに提供していくという思いが込められています。

第21回 農業の未来に対する皆さんの熱い思いをお寄せください。

ヤンマー学生懸賞論文・作文募集応募受付中。

テーマ “農が変わる 農が応える 今 未来への布石を”
〜生命を育む「食」、食を生み出す「農」、環境を守る「農山漁村」〜

応募期間/平成22年 6/1(火)〜10/20(水)

現在、日本の国内のみならず世界レベルで、
食料・資源エネルギー・環境・地球温暖化等の問題がクローズアップされています。
私どもは、この現状を自らの問題と受け止め、題記を論文・作文のテーマとし、
更に一層の議論を広げていきたいと思います。
本事業も今回で21回目を迎えます。夢と若さのあふれる提言を
数多くお寄せいただきたいと存じます。

詳しくは Webサイトへ! ヤンマー学生懸賞論文 検索

主催:ヤンマー株式会社
後援:農林水産省・財団法人 都市農山漁村交流活性化機構・社団法人 全国農村青少年教育振興会

■第21回表彰・賞金

【論文の部】	大賞	1編	賞金	100万円(賞状、記念品)
	特別優秀賞	2編	賞金	30万円(賞状、記念品)
	優秀賞	10編	賞金	10万円(賞状、記念品)
【作文の部】	金賞	1編	賞金	30万円(賞状、記念品)
	銀賞	2編	賞金	10万円(賞状、記念品)
	銅賞	10編	賞金	5万円(賞状、記念品)

なお、各部門とも応募規定・提出方法に合致した方には記念品を贈呈いたします。

■応募資格

【論文の部】大学、大学院、短期大学、農業大学校、農業短期大学、各種専門学校に在籍する30才以下(平成22年10月20日現在)の学生。ただし、外国からの留学生は35才以下。
【作文の部】農業大学校、農業短期大学に在籍する25才以下(平成22年10月20日現在)の学生。

■応募パンフレット請求と応募先

〒530-8321 大阪市北区茶屋町1-32
ヤンマー株式会社 ヤンマー学院内「学生懸賞論文・作文募集係」宛
フリーダイヤル 0120-376-530(月〜金 10:00〜17:00)
【E-mail】ronbun@yanmar.co.jp【HP】http://www.yanmar.co.jp